

建築士
おおた

新年号



Ⓐ 社団法人 大分県建築士会

2006 NO 95

CONTENTS

1. ニュース採録・ニュース再録	
2. 特別寄稿 憧れの町をほろ酔い気分で歩く	〈木谷ムラマチ計画研究室〉木谷 文弘
4. 特集 第19回「サマーセミナー in 国東半島」	〈国東支部〉菊本 軍治
6. 第19回「サマーセミナー in 国東半島」に参加して	〈高田支部〉岩尾 博
8. シンポジウム「宗麟のまちづくり」報告	〈臼杵支部〉赤嶺 竜一・板井 祐介
10. 舌検隊 番外編 -福島編-	〈大分支部〉宮崎 敏信
12. 連載「福祉と住宅改修」NO.4	〈津久見支部〉大村 正壽、金只 昌平
14. 個人的図書紹介 Vol.10	〈大分支部〉笠木 忠昭
17. シリーズ 登録文化財NO.16 富士屋旅館	〈別府支部〉岡田 宏基
18. MY WORK	〈中津支部〉〈佐伯支部〉〈三重支部〉
20. 会員紹介	〈臼杵支部〉〈佐伯支部〉〈大分支部〉〈中津支部〉
22. インフォメーション	
~ 臼杵支部 ~	赤嶺 竜一
~ 津久見支部1 ~	姫野総一郎
~ 津久見支部2 ~	迫村 伸一
~ 三重支部 ~	後藤 康仁
~ 別府支部 ~	岡田 宏基
~ 大分支部 ~	足立 心也
~ 中津支部 ~	椋田 康男
30. 第20回 豊の国木造建築賞	
32. 平成16年度 まちづくり活動助成事業完了報告	
「直入町のまちづくりを考える」	〈竹田支部〉山浦 一光
日出町若宮八幡社楼門現地調査と報告書作成	〈別府支部〉岡田 宏基
36. 愛媛県建築士会・情報広報委員会 交流会報告	〈大分支部〉笠木 忠昭
37. 行政だより	
38. 公文書コーナー	
40. 事務局だより	事務所
42. 新会員紹介・指定講習会開催のお知らせ	
43. 編集後記	



竹宵

臼杵の歴史的資源である古い町並みを活かすため、「静」「和」「女性の祭り」、ローソクを使った実行委員の手作りによる竹ほんほりを約1万本並べ、その灯火によって古い町並みをライトアップし、まち全体を幻想的な空間として演出します。

ニュース探録 ニュース再録

■ 豊後森機関庫をライトアップ 夜空に鉄道遺産くっきり
玖珠町のJR豊後森駅構内に残る扇形の機関庫が12日夜、ライトアップされ、夜空に鉄道遺産の造形美が浮かび上がった。機関庫は同町が買い取る方向で、JRとの交渉が進められている。

(西日本新聞 05 4/15)

■ 県産木材の使用拡大県が“バックアップ”

県は本年度、幼稚園や保育所などが床や壁などの内装に県産木材を利用する場合に、費用の半額を補助する。子どものころから木に親んでもらうと同時に、保護者にも木質内装の快適さや健康面での効果をPRすることで、将来の木造住宅の普及を狙う。

(大分合同新聞 05 4/23)

■ 自治体に耐震化命令権 国交省改修促進法改正へ

国土交通省は、26日、病院や映画館、デパートなど公共性の高い施設の耐震化が不十分な場合、自治体が「改善命令」を出せるよう、耐震改修促進法を改正する方針を固めた。

(西日本新聞 05 4/27)

■ 別府駅前高等温泉守ろう

APU学生改修支援へカフェ開設

建物の老朽化で存続が危ぶまれている別府市の「駅前高等温泉」の改修費を支援しようと、同市の立命館アジア太平洋大 (APU) 学生たちが、毎週土曜、ドイツ建築様式の温泉前でカフェ「ゲミューゼ」を開設し、観光客らに好評だ。

(読賣新聞 05 5/29)

■ 耐震化や防犯住宅政策の柱

国交省が新目標、来年に法改正

国土交通省は住宅建設戸数や宅地供給面積の目標を五カ年計画などで定め、地方自治体に計画に沿った施策を義務付ける方式を2005年度で廃止する方針だ。耐震化や省エネなど、すでに建てられた住宅の質向上や、住宅地の緑地維持などを重視する方向に転換する。

(日本経済新聞 05 5/7)

■ 別府を代表する近代建築遺産 旧麻生別荘競売に

泉都・別府を代表する近代建築遺産の一つで、大正ロマン・昭和レトロの薫りがする旧麻生別荘 (別府市山の手町) が、大分地裁で競売にかけていることが十日、分かった。保存・利用をめぐる「別府の迎賓館に」と市内の地域おこしグループが活動してきた経緯がある。

(大分合同新聞 05 5/11)

■ 県内の住宅着工 4年ぶり1万戸回復

貸家、分譲が大幅増

国土交通省が集計した2004年度の住宅着工統計によると、大分県内の新設住宅着工戸数が四年ぶりに一万户を突破した。ダイハツ車体など進出企業向けの貸家や、大分、別府両市の分譲住宅 (マンションなど) の大幅増が全体を押し上げた。一方で、持ち家 (注文住宅) は過去10年間で最低を記録しており、住宅需要の本格回復には時間がかかりそうだ。

(大分合同新聞 05 5/12)

■ 県立学校 耐震診断、前倒して24棟

県教委は今年度、県立学校の耐震診断を、当初予定していた15棟から24棟に増やして実施する。これまで地震の空白地帯とみられてきた新潟、福岡県で相次いで大きな地震が起き、「いつどこで起きてても不思議ではない」(学校施設課)との危機感に迫られた。来年度も診断対象を増やすなど、対応を急ぐ。

(読賣新聞 05 5/15)

■ 公共事業費、4年で4割減 建設産業の再生図る

県は24日、国や県などの財政難などを背景に公共事業費が落ち込み苦境に立つ建設産業の再生を図る「県建設産業再生支援ネットワーク会議」を発足させた。

(西日本新聞 05 5/25)

■ ラムネ温泉イメチェンへ 外壁に趣ある「焼き杉」

竹田市直入町長湯の「ラムネ温泉」で、「焼き杉」の作業が行われた。同温泉は七月のリニューアルオープンに向け、工事中。設計は東京大学の藤森照信教授 (建築学) が担当。外壁に焼いた杉板を張るデザインを採用している。

(大分合同新聞 05 5/29)

■ 「まちのバリアフリー」統合 国交省来年、新法提出へ

国土交通省は5日、高齢者や車いすの人が一人で安全に移動できるよう、駅や空港などを中心に周辺の道路やデパート、病院などの建物も含めた一体的なバリアフリー化の促進計画を市町村が策定するよう求める新法を、来年の通常国会に提出する方針を固めた。住民側が計画の原案を提案できる制度も導入する。

(大分合同新聞 05 6/6)

■ 住宅ビス強度の認定書偽造

兼松日産農林元主任技師を逮捕

兼松日産農林 (東京) の住宅用ビス強度認定書偽造事件で、警視庁捜査二課は7日、有印公文書偽造・同行使の疑いで同社厚木事務所の元主任技師花沢功容疑者 (47)、懲戒解雇=を逮捕した。

(大分合同新聞 05 6/8)

■ 帆足家分家住宅/麻生家住宅 国の登録文化財へ

17日開かれた国の文化審議会で、大分市中戸次の帆足家分家住宅 (松石不老館)、豊後大野市三重町市場の麻生家住宅が、それぞれ国の登録有形文化財となることが決まった。

(読賣新聞 05 6/18)

■ 次代の棟梁 小中生50人大工道場へ入門

県主催の「おおい子ども大工道場」の入門式が25日、大分市の県庁ホールであった。大分、別府、津久見、豊後大野、日田、中津の6地区から小中学生50人が入門。そろいの青い法被を着て大工見習いを始めた。

(朝日新聞 05 6/26)

■ 悪質住宅リフォーム 県内昨年度相談97件

悪質な住宅リフォームによる被害が全国で相次ぐなか、県内でも住宅リフォームに関する苦情・相談が増加傾向だ。県消費生活・男女共同参画プラザ (大分市) には2004年度、97件が寄せられ、前年度を33件上回った。

(読賣新聞 05 7/2)

イギリスの田園都市・レッチワース

憧れの町をほろ酔い気分で歩く

木谷 文弘（木谷ムラマチ計画研究室）

☆小さな町

長年、土木行政に従事しながら思っていたことがある。「人が生きる上での理想の都市とは、どのようなものだろうか」ということだ。そして、いつか行ってみたいと思う町があった。イギリスのエベネザー・ハワードが造った「レッチワース」という田園都市だ。

先年、その町を訪れることができた。

レッチワースは、町中に「住」と「職」と「農」のゾーンを計画した。つまり住居を中心に、働く場の工場と食べるものを生産する農業の場を配置した。ロンドンに近い町々は、ロンドンという「働く場」があったので、「住」のみの町となった。ロンドンを取り巻く衛星都市となった。しかし、ハワードの目指した「田園都市」は、ひとつの町ですべてが収束するような空間を、ハワードは造りたかったのに違いない。



レッチワースはすべてが小さかった。駅のホームも小さかった。駅舎も小さかった。どこかで見たような気がした。由布院駅の清々しい雰囲気だ。

駅舎を出た。公園というか広場というか、やけに広い空間に出た。彩り通りの花が咲いていた。開放感を感じさせた。何人かの職人たちがせわしく働いていた。笑いながら話しながらやけに嬉しそうに働いていた。

労働の時間を楽しんでいるようだ。理想の労働の場だ。

広場を過ぎると、道が直線ではるか彼方まで続いていた。高木の街路樹が道路に沿って果てなく植えられていた。その道が、「ブロードウェイ」というらしい。レッチワースの町は、まずこの道から始まっていた。そういつてもいい雰囲気のある道だった。

☆心やさしき人たち

ひとりの男が向こうから歩いて来た。

「日本から来た人かい？」

「ええ、そうですよ」

「最近、日本の若者たちがこの町をよく歩いているよ」

「おそらく都市計画の勉強している人たちです」

「この建物は、現在は福祉のオフィスになっているが、昔は農業学校だったんだ」

私の目の前にあるレンガ造りの建物を男は指さした。その建物には、その名残か、「ファーマースクール」との看板が、レンガの壁にはめ込まれていた。

「ゆっくり見ていってくれよな」

男は手を振りながら建物の中へ消えた。

小さな教会があった。屋根に十字架があることでわかった。教会の横に、かなり大きな建物があった。この建物はなんだろう。私が悩んでいると、教会からひとりの男が現れた。私は建物を指さした。

「住民が集まって話をする場なのさ。そうだよな、コミュニティホールのようなものさ」

牧師さんらしい男がにこやかに教えてくれた。礼をいって、私はまた歩き始めた。

ゆたかな緑にあふれた道はずっと続いていた。信号機がなかった。車道と歩道の間には芝生が植えられ区分けされていた。そして高い木が一定の間隔で植えられていた。樹齢は百年といったところだろうか。

個人の住居のほとんどが一階だ。長屋らしき建物で二階建てがあった。若者たちの下宿なのだろうか。公共の建物でも三階に押しえられていた。

それになにより、すべての家にフロントヤードと呼ばれている「前庭」があった。芝生や花が植えられていた。柵というか塀がないので、すべての庭を楽しむことができた。大きな木が必ず植えられていた。窓はサッシではない。木枠か鉄枠だ。百年前から、建物の

形は変えられていなのだろう。

五差路へ出た。緑に囲まれた交差点だ。ここも信号機がない。「ラウンドアバウト」型式で車はそれぞれ一定の方向から入って望みの通りへ出るようになっていた。ゆずりあい交差点といたらいいのだろうか。

電柱や看板も少なかった。すっきりというかさわやかな景観を見せていた。通り名の看板だけが小さく表示され角々に立てられていた。

家と家の裏には歩行者専用の路地があった。安全に歩いて駅まで行けるということだ。

「理想の町」が現実にできていた。私は驚きよりも感動を覚えていた。おばあさんが乳母車を押してきた。

「ノバア・ナイス・ディー」

これには驚いた。私は思わず頭を下げた。町が整然と整備されていると、住んでいる人の心もやさしく思いやりが生まれてくるようになるのかもしれない。

☆「三つの磁石」という名のパブ

時間は十二時を過ぎていた。さあ、「パブ」に行つて、ビールを呑むとするか。

イギリスでは、どんな小さな田舎でも「パブ」という居酒屋がある。語源は、パブリックスペースからきている。つまり、村のたまり場ということだ。

それはレッチワースでも同じだ。「三つの磁石」という名のパブがあった。三つの磁石という店名に、私は苦笑いをしてしまった。

ハワード目指したまちづくりは、「都市計画」ではなく「社会改革」だった。彼の描いた町は、都市の否定ではなかった。「都市」という磁石と、「農村」という磁石と、「都市と農村」という磁石、その三つの磁石が引きつけ合うことにより、理想の「田園都市」がつくれると、彼は考えたのである。

その三つの磁石を、パブの店名にしている。私は恐る恐るドアを押した。思ったよりも大きな音がした。室内は薄暗かった。パブはカウンターだけだと思っていた。間違っていた。テーブル席もかなりあった。私は窓際のテーブルに座った。

通りかかった女店員へビールを注文しようとした。女店員は微笑んでカウンターを指さした。ビールはカウンターでということらしい。

カウンターには髭を生やしたバーテンがいた。「ビア」と言ったら、バーテンは首を傾げた。ラガーやエールなどと、ビールの種類があるようだ。イギリスに来ている。「エール」と、私は告げた。バーテンは胸を張って器用に注いでくれた。

テーブルへ戻った。肴を注文しなくてはいけない。私は躊躇なくフィッシュアンドチップスを注文した。

そうだよな。イギリスのパブだものな。

ビールを呑みながら、私は周囲を見渡した。前のテーブルの紳士然としたじいさんが窓辺に座って外を眺めていた。ゆっくりとビールを呑んでいた。パブではビールをあわてて呑む人はいない。泡を多く入れるとコクが薄れることがない。ビールを味わうには、ゆっくりと呑むに限る。じいさんは何を考えながら呑んでいるのだろうか。若き日の旅か恋か人生か。ああ。



☆ 森の中の町

パブを出ると、商店街の歩道を歩いた。歩道がやけに広がった。車道がやけに狭かった。人はゆったりと歩きなさい。車はゆっくりと走りなさい。そういうことだろう。私はほろ酔いでゆっくりと歩いた。

街路樹が不規則にあちらこちらに植えられていた。この木が大きくなると、「森の中に商店街がある」という状況になるのだろう。「自然とともに成長する商店街」……商店街のひとつの有様を、私は知った。

レッチワースにはいつまでもいたかった。しかし、旅人は故郷へ帰らなくてはいけない。駅へ行った。電車が十分後に到着するようだ。私は駅舎を眺めた。

もう来られないかもしれない。また来るかもしれない。私はせつない気分になっていた。

駅は静かだった。鳥の鳴き声以外は何の音も聞こえなかった。ゴミがひとつもなく美しかった。売店もなかった。自動販売機もなかった。改札口もなかった。

私はホームに佇んでいた。木々の香りがした。なんというゆたかさを感じさせる町なのだろう。線路の向こうから、電車がやってきた。電車が着いた。私は乗った。電車が走り始めた。私は窓の外を見た。

レッチワースの町並みがゆっくりと流れた。



特集記事

第19回 『サマーセミナー in 国東半島』

国東支部 菊本 軍治

経 緯

去る10月22日（土）『いこいの村国東』において、国東支部（始まって以来初）と貴田支部が合同でサマーセミナーを行いました。というのも前回宇佐支部でサマーセミナーに参加した時青年部部長会議の場で「来年は国東支部ですか？」との問いかけに野田青年部長が、「ハイ、やります。」と気持ちのいい返事をしたのがきっかけであります。（多少アルコールがはいっていたのかも？）歴代の青年部長の方々はサマーセミナーだけはのがれてきた経緯がありますし、今回もパスするのではと私と田原副青年部長も正直思っていました。しかし現青年部長は一味ちがっていました・・・。

会 議

早速支部長に報告をし、役員会をひらきました。高田支部の後藤青年部長も出席していただき3分科会3コースをきめました。会議をかさねることに役員の方々の活発な意見もどんどん発表され非常に和やかな雰囲気、毎回会議を終了することができました。なかでもナイトマップ担当のA氏、I氏のお二人には何回も下見？に行っていたいただき（予算がないので自費で）すばらしいナイトマップができました。

当 日

午前11時に役員は集合し、各担当の役割の確認をしました。前日までの打合せがよかったのでスムーズに準備ができました。

しかし当日は思った以上に肌寒く『サマーセミナーじゃなく寒みーセミナーやなあ』などと冗談もいながらほとんどの役員は駐車場の整理にいきましたが、受付開始が12時からで式典が12時40分ですが参加者



19回サマーセミナー in 国東



は少なく駐車場係りにでている人数のほうが多いよう
におもいました。『このままやったら身も心も寒みー
セミナーやなあー』と私自身おもいながら式典の会場
に行ったところ、思った通り参加人数は少なくその時
ふと私の頭の中によぎった事がありました。・・・
『このままだと身銭を切ってすばらしいナイトマップ
を作ってくれたA氏、I氏の努力が報われないな』
と・・・。

懇談会、報告会


不思議なことに懇親会では参加者がふえていたそう
です。(私は懇親会には残念ながら参加できませんでした。)
実は懇親会だけではなく分科会出発時には参加者のほとん
どが集まっていました。18時15分より報告会、18時30分
より懇親会が始まりました。

歓迎セレモニー(国東神楽社)、乾杯、と続きアトラク
ションでは重量当てゲームを行い盛り上がったそうです。
(決勝戦では岩瀬会長の体重当てまでしたそうです。)

感 想

今回このようなイベントを受け持つことにより会員
一同がいままで以上に他支部との交流が図れたと思
います。又高田支部の支部長をはじめ役員の方々のご協
力があって盛大に終了することができ感謝いたします。





特集記事

『サマーセミナー in 国東半島』 に参加して

高田支部 岩尾 博

三つの分科会 ①六郷満山コース ②マガタマコース ③昭和レトロ散策コースのうち、私は、③昭和レトロ散策コースを選んだ。受付、式典のあと三台のバスに分乗し、それぞれのコースに出発した。結構肌寒い日で晩秋の様相を呈し、サマーセミナーという言葉の響きが時季はずれに思えた。バスは、ほぼ満席で四十数名いたろう。三コースの中では、一番の人気である。国東から高田に通じる県道は非常に良くなっている。国東の町中を抜けて、行入ダムー両子寺、登りが下り坂になると並石ダム、そして高田の市街地へ。霊山の両子山の紅葉はまだ早い。

はやる気持ちを押えつけるような空の色、雨が降らなければいいが。五十分弱で高田に着く。バスが昭和の町、散策コースの出発点の桂川の右岸、桂橋のたもとに到着する。バスから降りると「ああ田舎じゃのう」「こげなとこん、どこがいいんかのう」。私は昭和の町に対して批判的もしくは、成功しつつある昭和の町に対して妬みを持っているのかもしれない。なぜなら当初、そんなにいいとは思わなかった。

高田の商店街は時代の波に押され、閑古鳥が鳴いていたのだ。昭和三十年当時、私は七歳でその当時高田の町は賑わっていた。宇佐郡、真玉町、香々地町、近郷近在から買い物客で溢れ、高田の町に来れば何でも買えたのだ。入学式や正月、修学旅行の時など母親に連れられて新しい下着や服、靴を買ってもらうのが何よりの楽しみでもあった。又、宮町の祭りの広場には、寿座という芝居小屋があり、市川何某かの役者の芝居も見た。

見世物小屋、茶碗せり、輪投げ、おもちゃでは、特に正ちゃんの一輪車が記憶に残っている。横になったり、立てたりしても倒れない。三日間の祭りの際の小使いを百五十円貰い一日目にして全部使ったので便所に立たされたことを思い出す。六十歳間近の人間の郷愁かもしれない。

桂川を渡ると呉服屋の「瓦屋」がある。ここで二班

に分かれて見学となった。



昭和の町の特徴の一つは店の入口上部の屋根に掛けている屋号の看板である。これがいろいろ形があつて面白い。外壁や屋根などは改修工事をしていて古びた昔風にみえても何か深みを感じない。この屋号というのは江戸時代島原藩の飛び領地だった頃より商業の中心地であつたため昔からの屋号があると思つている。

何軒かの店を覗くとお茶を出してくれた。

お客さんが沢山来るようになってお店の人も嬉しいのだ。金岡肉屋のコロケは何種類もあつて人気がある。参加者に1個づつ熱い揚げたてのコロケが配られる。おいしい！



この所まで来ると雨が時雨のように時折降ってきた。駅前通りを急いで抜け、昭和ロマン蔵に走り込む。雨は、やや強く降ってきた。この駅前通りというのは高田の全盛期、宇佐駅を通り宇佐八幡まで行く軽便鉄道駅の名残りでもある。

昭和の町の中でいつしか主役の座を占めているの

が、この「ロマン蔵」である。

大昔、大分県で一、二位を争う程の豪商、野村家が
残してくれた大規模木造建築物。現代から言えばいつ
建て直されてもいいような建物であった。それが生き
返った。私は、この建物がいい匂いを発するように思
える。豊後高田にとって先人がいい遺産を残し、それ
を又活用した町おこしグループの知恵だった。蔵とい
うのは以前この建物が米蔵だったため付けられた名前
ではないか。

ロマン蔵の中に駄菓子屋の博物館というのがあつ
て、ここは入場料が五百円かかる。昭和の懐かしいお
もちゃがありとあらゆる程並べられていて、懐かしさ
を憶える。又、映画のポスターや当時のお茶の間の風
景が再現されている。隣には、黒崎義介さんという人
の童話絵本が展示している。



中庭や軒下部分にダイハツミゼットやキャロルなど
何台か展示している。



昭和の町の風景は、庶民が暮らした町のささやかな
昔語りでもある。

この町の継続性は今、議論されている。帰りのバス
は皆、静かであった。再び両子路を抜け国東に入る。
夜の懇親会を楽しみにして。



私は高田支部の会員なのでこのたびは国東と共同開
催ということでしたが、ほとんど手伝いをしなかった。
国東支部の皆様にお世話になった次第です。
ありがとうございました。



KK 大分住宅研究室

「宗麟のまちづくり」報告

～「うすき」そのまちづくりのルーツを探る～

臼杵支部 赤嶺 竜一・板井 祐介

○『コント・ソンデ』の紹介をまずはじめに

建築士会臼杵支部は、今まで“うすきのまちづくり”に参加し、主に景観、建物などハードの面での活動をしてきました。その中で、中世の臼杵と南蛮文化に興味を持ち、もうちょっと掘り下げた調査研究をしまちづくりに活かそうと、支部会員の有志がつくったグループが『コント・ソンデ』です



大友宗麟

臼杵は戦国時代に、キリシタン大名として知られる大友宗麟の拠点都市として城下町が形成され、以降も歴史的町並みをよくとどめてきています。当時の臼杵は南蛮文化が栄え、イエズス会の布教の中心でもありました。



サーラ・デ・うすき

グレゴリオ大学に残るノビシャド（修練院）の想像画

このような何かロマンを感じさせる“中世の臼杵”をもっと知りたい！という意識が芽生えたのがこの会の始まりです。

現在会員16名、顧問2名で構成されています。

そこでこのたび学習成果のいち集大成としまして、日本芸術文化振興基金の助成を受け、会員による調査成果を示す「うすき南蛮マップ」の発刊と配布と市民を対象に「中世の臼杵と宗麟」に関するシンポジウムを開催いたしました。

○コント・ソンデ～シンポジウム報告

去る11月5日(土)臼杵中央公民館大ホールにて奈良大学文化財学科助教授の千田嘉博先生と大分市文化財課の坪根伸也さんそして士会より神田高士さんを迎え、シンポジウム「宗麟のまちづくり」が催されました。

長い準備期間を費やし迎えた当日には、士会会員の方の協力もあり万事順調に進みました。



9：00からは神田さん解説による中世臼杵の町並みを考察する散策が行われ、丹生島を出発し八町から仁王座を巡り再び丹生島に戻るコースを散策しました。



まちなみ散策

その後、予定通り13：00より千田先生による講演「中世における城と町」が満員御礼のなか行われ、中世当時のまちや城とはどの様なつくりだったのか臼杵と比較でき大変勉強になりました。



続いて行われた鼎談では、御三人それぞれの歴史考察意見を拝聴できつくづく白杵とは歴史的環境に恵まれた土地なのだと感じました。一般の方々も来場していましたが同じ様な思いだったのではと思います。

このシンポジウムが今後の白杵の歴史検証の一助になればと思います。主催者(高橋利治氏)発表による来場者数200人のシンポは予定通りに無事終了し、迎えた懇親会では皆笑顔のもと楽しく酒を酌み交わしました。最後に千田先生、坪根さん、神田さんの力強い握手で閉会し、みな竹宵の街中へ観光に向かいました。最後に、ご協力・御来場くださった士会の皆様誠に有難うございました。

そして、コントのメンバーの皆さんお疲れ様でした。

ここで、“コント・ソンド”の語源を、

“コント・ソンド” = “cont-sonde” = “来んと損で”

URL http://www.geocities.jp/takahashi18_12/

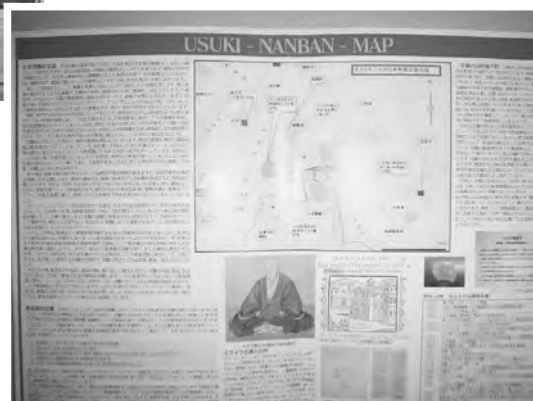
詳しい詳細は、上記アドレスまで、まだまだたくさんおもしろーことかいちゃんけん。



神田氏による大友時代の白杵の模型



コント・ソンドメンバー模型の作成



御礼 ファン・タカハシ
ボン・ジーア!

このたび、南蛮MAP初版発行および、「宗麟のまちづくり」シンポジウムを無事終了することが出来ました。平成14年・15年に士会本部より、まちづくり活動助成事業として認められ地盤を築き、平成16年には、長崎佐世保での九プロでの発表(玉砕でしたが!)、と動いてきた我々“コント・ソンド”活動の第1幕の締めくくりに相応しい催しとなりました。

これもひとえに大分県建築士会のバックアップのおかげです。ありがとうございました。

また会員皆の、がむしゃらな努力の賜です。

何も先は見えず、考えもつかず、ただ勢いで動いてきましたが、これから、どういうふうに進んでいくのか、方向性が少し見え、いろいろ今後も楽しみです。

皆の気力と体力が続けば、まだまだこんなもんじゃない会に発展していくことでしょう。

白杵の450年の重さは計り知れない!

ムイント オブリガード!

P.S. 南蛮MAPは「サーラ・デ・うすき」に置いてあります。白杵に来たらずひ手にとって歩いてください。

円谷幸吉

メモリアルマラソン大会

舌検隊 番外編

福島編

大支部 宮崎 敏信

この大会は東京オリンピックマラソンで3位入賞したが、メキシコ大会へのプレッシャー等で自殺した円谷幸吉選手を記念し、毎年彼の出身地須賀川で開催されている。君原選手も親友だった縁で毎年招待されている。小生と同年代で君原選手を尊敬している小生は、予て参加したいと思っていた。定年になり時間的にも余裕が出来たので今回初参加となった。それともう一つの理由は、JR「富士」が近いうちに廃止されそうで、今の内に乗っておきたいからだ。



10月14日、夕刻16時48分大分発「富士」に乗り込む。十数年振りである。以前東京出張等で良く利用したものだ。駅前の元「ダイエー」で酒・つまみを調達し喜々として乗っていた。今回は、マルショクの弁当とつまみ、缶ビール、パック酒を持参する。出発を待って、早速、弁当を拵げ一人で乾杯する。ゆっくり本でも読もうと思ったが、別府より男女3人乗り込んで来て同席となる。他の席も団体が乗ったそうで満員になる。久々らしい。別府組もビールをドッサリと



焼酎瓶を抱え、酒盛りとなる。お互い気が合い?大いに語り、盛り上がった。これが鉄道旅行の醍醐味である。時間の経つのも忘れてしまう。



15日、朝食は「富士」には食堂車が無く、車内販売のサンドイッチとする。信号停止等で13分遅れ、東北新幹線乗り換え時間が5分しかなく慌てる。車掌に遅れた為の切符時間変更をお願いするが、東京駅員しか変更等は出来ない由。ジリジリして到着を待つ。客もほとんどが下車しており二人しか乗ってない。“間に合って欲しい”と神様に祈る。やっと東京駅ホーム着。飛び降りて一目散に東北新幹線ホームを目指す。広大な駅構内を走る。客も多く走りづらい。気が焦って、息が上がる。幸いホームが近く3分前に乗り込めた。汗が一気に吹き出す。一息つくと列車が滑り出した。

日頃走っているのだから間に合った?ようで心底からホッとする。「MAXやまびこ」は二階建てで見晴らしがいい。隣の席には、妙齢の女性で運もいい。

11時40分郡山着。新幹線開業時建設の立派な駅舎だ。昼食に駅構内のうどん屋「杵屋」で“ねぎ玉子うどんセット”を採る。目の前で打っており、なかなかの味だった。店員さんも感じ良く気持ち良かった。満員で写真が撮れなかったのが残念だった。普通列車で須賀川駅まで10分だ。

マラソンコースも通るので、下見を兼ねて歩いてホテルに向かう。人通りが少ない。15分でホテル着。





早速トレーニングウェアに着替え街に飛び出す。お目当ての「円谷幸吉記念館」の見学する。

東京オリンピックの銅メダルや数々の賞状、そして自衛隊の制服等遺品も展示されている。素朴な性格が悲しみを誘う。外には“忍耐”の碑文が飾ってある。

記念館の直ぐ側がマラソンコースとなっており、ジョギングして調整する。スタート地点まで点検した。アップダウンが多く、タフなコースのようだ。風呂に入りサッパリして夕食に出掛ける。数軒あるが、セットメニューが良かったので、近くのホテル虎屋内の「開」に入る。感じのよい居酒屋造りとなっており、満足する。早速生ビールを注文。走って風呂に入っているのですごくおいしい。これのために走っている感じだ。

“開御前”には、お造りにマグロ・鯛・ブリの刺し身や天麩羅、茶わん蒸しが付いており味もよく満足だった。地方の大会に参加するときは地酒を飲むことにしており今回は“あぶくま”の本醸造と純米酒各ター合味見する。甘口と辛口で料理にも合った。

つまみをもう1品として“もつ煮込み”をとる。スタミナを取る。明日のレースを考えてこれで切り上げる。コンビニで明日の朝食用にパン、ヨーグルト等調達する。雨が結構降ってるが、明日は晴れる予想で安心する。早めに就寝するが例のごとく夜中に目が醒める。



16日、大会当日、雨が上がっているがドンヨリと曇っている。気温も16～7度と寒くない。

昨夜のパン等で朝食を済ませる。受付をするため会場の並木運動場まで歩いて行く。受付を済まし、ジョグでまたホテルまで帰りチェックアウトする。グラウンドがじるく、開会式は体育館である。招待の君原選手が紹介されていた。アップも適当にする。10kmレースなので少なめとした。

スタートは、グラウンドが悪いため、道路からとなる。60歳代は最後尾からだ。流しを数本入れて気合が入る。誰もやってないようだ。君原選手が最前列である。

10:00スタート。ノロノロが500mくらいで解消しマイペースで走れ出す。市街地に入り応援も多くなる。アップダウンが延々と続く。平地はほとんど無い。1km4分ペースで進む。相当抜いて上位になるが前にも大勢走っている。5kmの折り返しでマークしていた速水選手と交差する。1分位空いている。さすがに37分台で2連覇している実力者だ。小生は10kmは7年振であり、40分程度と予想していた。

昨日、練習したコース付近になりラスト2kmだ。ペースを守って行ったのでそうきつくない。最後の長い坂にかかる。

円谷幸吉記念館の前を通過。下を見て腕を振る。ラスト1km通過。何とか40分を切れそうと頑張ってグラウンドへ入る。ところが昨夜の雨でドロコ状態。5～6センチもシューズがはまり滑る。ガタンとペースが落ちてしまう。フィニッシュまで長いこと。ウンザリ気分で行き終える。40分を切れず残念だった。直ぐに完走記録証が交付された。2位で40分29秒だった。アップダウンの多いコースとグラウンド状況を考慮すれば、マアママの記録と納得する。表彰式も1位から10位まで一括やってくれ助かる。副賞はトロフィーで有難迷惑?だ。大急ぎで着替え、帰りのバスも無いので、歩いて須賀川駅へ。30分かかった。郡山駅でお土産・荷物をを宅配する。駅弁・酒類を買い込み新幹線ホームへ。車中でゆっくり飲んで食べて3時に東京着。18:03発の「富士」で大分に向う。駅地下の大丸で買った弁当をゆっくり賞味しながら、いい旅だったと満足する。



(大分県企業局 工務課 勤務)

***** 津久見支部 正会員 *****

福祉住環境コーディネーター 大村 正壽
金只 昌平

昨年、私の八十四歳になる父が以前より痛めていた右脚に人工股関節を入れるため、市外の病院で手術を受けた。無事に手術は終わり、その後、病院で数ヶ月のリハビリを行った。退院を前に病院のソーシャルワーカーより、自宅のトイレと浴室の改修、階段の手すりの取付が必要といわれ自宅の改修をすることになった。

～ 改修までの主な流れを簡単に記すと ～

- ①介護保険の申請と居宅介護支援事業所の選定、ケアマネジャー（ケアマネ）と契約する。
 - ②工事業者を選定する。
(病院より紹介された業者に決める)
 - ③ケアマネが業者に必要な改修を依頼する。
 - ④工事業者より設計図と見積書が出来あがる。
 - ⑤以下の点が気になったので、ケアマネと工事業者の担当者に相談する。
 - a. 洋式便器と手すり、介助なしで大丈夫か（立上りが出来るか）
 - b. トイレの両側（RC造）の壁に「胴ぶち」を打つと出入口が狭くなるので「直貼」に出来ないか
 - ⑥⑤のa.については父、私と業者の担当者として大分市明野の県社会福祉介護研修センターの展示場に行き、実際に父に試してもらう。また、大分市内の衛生機器メーカーのT社の展示場にも行き父は「ななめ昇降式便座」、「カウンタートップを手すり代わりに使う」が適しているとのこと。
 - b.については、「直貼」に変更
 - ⑦浴室の「手すり」の位置は、研修センターの担当の方と展示場で実際に、父が動作をしながら決める。
 - ⑧父は「ななめ昇降式便座」を選ぶについて次の点を心配した。
 - a. 母や必要の無い人が、この便座の高さと形状で使えるか（母は昇降機能は不必要）
 - b. この便座が要らなくなったとき、普通の便器になるか
- 以上の点は特に問題はなかった。
- ⑨業者に設計変更と見積書をお願いする。

- ⑩ケアマネが設計図、見積書を添え、介護保険の住宅改修の申請と県・市で行っている住宅改修補助金（当時）の申請をする。

- ⑪市の担当者の方が現場の調査のために来訪

- ⑫補助金額決定

- ⑬工事開始

- a. トイレ・・・小便器・旧洋式便器・旧手洗器撤去、小便器と旧洋式便器との間のドア撤去、段差解消工事、洋式便器取替、カウンターと手洗器の取付、床・壁・天井工事、照明器具取付
- b. 浴室・・・手すり取付
- c. 階段・・・補強板・手すり取付

- ⑭工事完了

- ⑮父は手術後、杖が必要になり自宅での生活に下記のことによって不安を感じていたようだ。

- a. 2階に居室があるため、階段の上り下りは大丈夫か
- b. 毎回トイレに行くのが大変
- c. 介助なしで風呂に入れるのか
- d. 車の運転が無理となり、歩行も杖が必要で、外出が思うように出来なくなるのではないか

- ⑮⑯のa.～c.については改修による事と、父の環境に適合するための努力に加えて筋力のアップで、今の日常生活には特に問題はないようだd.は当初はバス、タクシーを主に利用していたが、ケアマネの勧めにより四輪のモーターで駆動する「セニアカー」に乗るようになった、乗り始めは「遅い」と不満を言っていたが、今では病院、郵便局、買い物等や友人に会いに『アクセルを噴かせて?』外出している。

- ⑰改修工事後約一年になるが、父と家族は特に問題なく生活している。偶然、この原稿を県外で活躍していた、知り合いの「ケアマネ」に読んでもらう機会があった。その「ケアマネ」によると、⑤の「胴ぶち」の壁から既存壁に「直貼」への設計の変更⑥の『実際に父に試してもらう』⑦の『父が動作をしながら決めた』以上の3点は「そこまで行う人は少ないが、利用者の目線で見れば絶対に必要だ」との事であった。

我が家の改修はとても“手本”とはならないが“見本”として批判や批評していただきながら、少しでも参考になればと思う。



【改修後】
ななめ昇降式便座とドアノブをレバーハンドルに交換



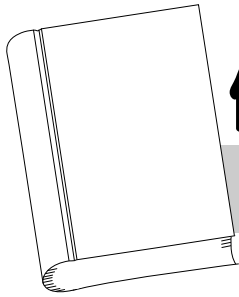
【改修後】
便座を上げた状態



【改修後】
「手すり」として使えるカウンタートップ



【改修後】
スリッパを置くためと照明の消し忘れ防止のために
ドアの下をカット



個人的図書紹介

vol.10

昭和の町、豊後高田

大分支部 笠木忠昭

大分県を形作っているというより、九州の輪郭を形成している国東半島を首に比べると、上品に言って、うなじのあたりに位置する豊後高田市の商店街活性化についての私の経験、失敗談を述べようと思います。

私の豊後高田体験は、十数年前まで年一回開催されていた「国東セミナー」への参加と、二年間の高田土木事務所勤めです。1991年と92年でした。

当時、豊後高田市の商店街は、猫も通らないと言われるほど、人影がなく、さびれる一方で、「猫さへ通らない商店街」という言葉は、当時を知る者は誰でも実感していたし、自嘲気味に口の端によくのびたものです。

ところが、ちょうどその頃、平松守彦知事（当時）が発案した国東テクノポリス構想の一環として、豊後高田市に工業団地造成の計画が持ち上がり、それを起爆剤として町の活性化を図ろうという動きが出てきました。まず既存商店街の活性化が叫ばれ、豊後高田商工会議所に活性化プランの作成のための補助金が下りたのです。推測ですが、千万円単位の委託費であったのではないかと思います。委託先は、天下の株式会社電通でした。

平成4年度（1992）の事業として活性化計画を練り上げました。その方法は、月一回、電通の専属担当職員がコーディネーターとして商工会議所の会議室に現れ、10名程度の地元委員を集め意見を聞きながら、それをまとめ、それをもとに検討事項を示し、次回はその課題についてまた討議を行う、というやり方で、年度末には、それらの集約として報告書の完成ということだったのです。集められた方々は、対象となる商店街の店主をはじめとしてゼネコン勤めの方、主婦もいたかな。そして行政からは、勿論市の職員、そして、県土木の建築係長が参加したのです。私は上司であるS係長の声掛けによって、末席に呼ばれその様子を有り難くも見聞きし、意見も述べる事が出来たのです。

その頃としては、コンサルが計画作成において、地元の民間人の意見を拝聴するという手法は、結構斬新なことのように思われました。夏には、ご褒美を兼ねて一泊二日の先進地視察があり、二班に分かれ、私の班は一日目は伊万里市、二日目は、すでに工業団地を

稼働させていた福岡県の広川町が最終目的地でした。途中、吉野ヶ里も見られたし、旅はそれなりに快適でした。

このような調子で一年間、電通に付き合いました。我々の意見が報告書に反映されて、それが実行に移され、活性化されればいいなど淡い期待を抱いたものです。『豊後高田市商業活性化構想策定事業 調査報告書』として立派な報告書ができあがりました。



第1章で基礎調査が記述されます。豊後高田市の地域特性の分析、商業環境の分析、中核工業団地事例分析などの基礎的事項が説明されます。

次に結論として、第2章で商業活性化事業構想が述べられます。内容は、商業地に隣接した中央公園を広場（広場は戦後から西欧の都市づくりの核として日本に輸入されたが、うまく機能した例はない）とし、そこに人が集まることを夢見て、その周辺にスポーツセンター、メディア・コミュニケーションセンター、生活アートセンターを新に配し、それらの施設を中心に人の流れを作り出し、商店街を活性化しようという提案でした。まあ、ありきたりの発想です。人がドッと押し寄せるような用途の建築物が簡単にできれば、日本中の中央商店街は衰退をすることはないはずですよ。これもお蔵入りだと思いました。商工会議所の金庫には、四、五年ごとにこのような補助事業による絵に描いた餅のような活性化案が作成され、眠っているようなのです。金庫の肥やしというやつですね。

それでも、今回の提案の中で誇れるものが二、三あります。一つは農協の土蔵造りの倉庫の活用を提案した点でした。この倉庫は農協の敷地のちょっと奥に位置し、相当な広さがあり、外観も内部も立派なものでした。しかし具体的な使い方の提案までは踏み込めませんでした。

二つ目に、S係長の提案した「つくらない事業」というコンセプトです。この頃はまだ、日本経済の右肩

上がりの成長を期待していた時期で、どうしてもハコ物と呼ばれる建築物を造って、それによる波及効果で町を活性化させようというのが当たり前にならざるを得ない時代でした。「つぐない事業」というのは、まさに慧眼でしたが、ご多分にもれず、この活性化構想においてさえ「つぐない事業」を志向しながらも、前述した施設の建設を提案しているのです。

ところで、そのような会議をお世話してくれた商工会議所の若手職員の中に、豊後高田の歴史に、いやに詳しい方がおられたのを憶えています。多分彼が、この昭和の町を着想した当人ではないかと私はにらんでいます。後日、彼の名前を聞いてきました。金谷俊樹という方だそうです。

「昭和30年代のまちなみ再生へ 豊後高田市の若手経営者ら」という昭和の町復活の基点となった新聞記事があります。

「古きよき時代」懐かしさを求め…

昭和三十年代の面影が色濃く残る豊後高田市の商店街の古さを前面に押し出して、かつてのにぎわいを取り戻そうと、豊後高田商工会議所が、若手経営者らと勉強会を設けて街づくりに取り組んでいる。古きよき時代に思いをはせ、懐かしさを取り戻せば人も集まる。こんな夢を抱いて五日（2000年3月）、シンポジウムを開く。

活性化の決め手に

同市中心部の商店街は八つの商店街から形成、大正時代末と昭和三十年代が最もにぎわった。市の都市計画などにもあわず、現在でも幅三、四mの道路が入り組み、約百四十店が軒を並べ、古いまま残る。だが、後継者のいる店は二、三割程度。空き店舗も目立つ状態だ。

七、八年前から同商工会議所を中心に、商店街の活性化を検討する委員会などがつくり、農業倉庫でのイベントを実施、ヨーロッパ風の街並みを模した『風の街』構想も浮かんできた。

そんな中で、駄菓子屋や赤ちょうちんの店などを並べ、全国のラーメンを食べられるようにした『新横浜ラーメン博物館』（神奈川県）が成功、各地

で『高度成長期前の時代への回帰』がブームになり、一年ほど前から『古き』に着目して研究を続けてきた。（略）

（『朝日新聞2000年3月3日付』より）

そして、手探りのイベントや講演会、討論会を経て、2001年9月10日「昭和の町オープニングセレモニー」を、同年11月「昭和ロマン蔵 蔵開き博覧会」を開催し、いよいよ昭和の町の始まり、始まりー。



ところで、昭和ロマン蔵は、商業活性化構想で目を付けた農業倉庫だったのです。新用途の着想には唖然とし、してやられたと思いました。

その2年後、西日本新聞の「新九州紀行」という連載記事の中で、昭和の町をルポした箇所がありますので転載します。

「もんぺ姿の町案内人、藤原ちず子さん（五四）が、歩きながら軽妙な口調で説明してくれた。

『犬や猫ばかりの通りを昭和三十年代の姿に戻そうと、二年前に七店舗から始めました。でもね、期待しないほうがいいですよ。普通の町ですから』

商店街には、レトロな看板やたたずまいの甘味処や薬局、菓子店が点在。電気店には白黒テレビ、冷蔵庫、洗濯機の当時の『三種の神器』、物産市場の前には行商リアカーが置かれている。

『この肉屋さんは看板装飾をはがして昭和の姿に戻りました』『この銀行跡には牛馬をつなぐ器具が残っています』

アイスクャンディの旗、木造の大衆食堂。車と譲り合いながらの散策を楽しみ、懐かしい玩具が並ぶ『駄菓子屋の夢博物館』がある『昭和ロマン蔵』にたどり着いた。最初は物珍しげだった同行の女性グループは、『こげな暮らしをしとったよね』と、すっかり娘時代にタイムスリップしていた。バスツアーで六回も訪れたマニアも現れているという。

なぜ昭和の町なのか。『通りに並ぶ建物の七割が昭和三十年代以前のものだったんですよ』。仕掛け人で



ある豊後高田商工会議所の金谷俊樹さん（四八）は、十年に及ぶ仲間との模索の末、『物は豊になったが、現代人は幸せを実感していない。閉塞社会の中で忘れ物探しをしている』との思いを強くした。そして、近代化に取り残された商店街が『単純で元気で自然だった時代』を発信する資源に映ったのだった。」（『西日本新聞 2003年12月7日付』 文＝山浦 修）

本当にたいしたものはない商店街ですが、昭和三十年代に普通であったモノが、店先に普通に置かれた商店の並ぶ町は、不思議と飽きないのです。

「携帯もパソコンもTVもなかったのに、どうしてあんなに楽しかったのだろう。」これは、西岸良平 作の漫画『三丁目の夕日』を映画化した「ALWAYS」という映画のキャッチコピーです。昭和の町には、そういう楽しさをよみがえらせる何かがあるのです。私が思うに、楽しかったことも苦しかったことも、良きにせよ悪きにせよ、それらを包み込む家族というものがまだ濃密だった時代への郷愁ではないのでしょうか。

今では、観光バスのルートに組み込まれ、年間20万人を越える集客力を誇っています。9年前、その商店街では、猫が歩いているのを見かけることがあっても、人通りを見ることは全くなかったのです。まさに「奇跡の町」と言ってもおかしくありません。

私は、ここでかつて紹介した『由布院の小さな奇跡』（木谷文弘著 新潮新書）に書かれてあることを思い出します。

「それら、由布院のイベントはすべてが手づくりだ。
『イベントは手づくりに限る』

中谷や溝口はじめ由布院の人たちはよく言う。イベント会社へ頼めば苦勞をしなくてもいい。それになにより、立派な内容のものができるはずだ。でも、

それには、多額な費用がかかる。民間主導の由布院のイベントには、外部に委託するだけの金がなかった。だから、手づくりでやらざるをえなかった。それが良かった。手づくりのイベントのノウハウを、自分たちのものにすることができた。（略）」

全国大手と呼ばれるコンサルタントが、毎年どこかの町の活性化案の作成を数千万円の委託金額で請負、金庫の肥やしとしているのでは、と考えるともったいなくてしょうがありません。その証拠にそれらの事業を行う補助金は、毎年交付されているのに、その事業で成功した事例を聞くことは殆どないのです。「まちづくりは手づくりに限る」のです。

その後、この試みは、後追いで「半島地域の振興した団体をたたえる二〇〇三年度の半島地域活性化優良事例表彰で、最高賞の国土交通大臣賞」（『西日本新聞 2004年3月19日付』より）が豊後高田商工会議所に与えられ、また、総務省の過疎地域自立活性化優良事例表彰も受けました。（この後も商業活性化やまちづくりに対して、幾つもの賞を受賞している。私が知っているのは次の二賞である。

2005年8月2日、内閣府で開催された「地域再生・地域自慢大会～自主・自立・自考のアイデア合戦～」で優勝。

2005年10月「斬新な発想で、個性と活力ある地域造りに取り組む自治体や団体を顕彰する今年度の『ふるさとづくり賞』（読売新聞東京本社など主催）で昭和30年代の町並みを復活させ、中心市街地再生に取り組む豊後高田市が内閣官房長官賞を受賞した。」（『読売新聞2005年10月14日付』より）

2005年1月4日付『朝日新聞』に「『平成の大合併』で市町村の歴史的な地名が消えたり、漢字名が平仮名に置き換えられようとするなか、豊後高田市は3月末の新市誕生に伴い、『鍛冶屋町』『金谷町』など懐かしい旧名を半世紀ぶりに復活させる。（略）」という素敵な記事が掲載されました。

しかし、昨年四月には、市、商工会議所、地元企業などが出資する第三セクター方式の「観光まちづくり会社」を設立し、市町村合併後の「昭和の町」を核とした広域観光事業に取り組むという情報が入ってきました。私は、第三セクター方式が成功した事例を余り知りません。いかに民間的手法と言えどもこの方式の導入には危懼を抱くのです。金谷俊樹氏や商店街の若手経営者の熱意や意欲、町に対する愛情を、この「観光まちづくり会社」が汲み上げることが出来るか否かにかかっているような気がします。

今後も、町の中で実際に汗を流している方々が、自らの体で事業を営み、自らの頭で発想し、自らの手で豊後高田の将来像を描いて欲しいと思うのです。



「富士屋旅館」

現在は「富士屋 Gallery『一也百』(はなやもも)」



▲ 富士屋Gallery「一也百」外観



2階ギャラリー ▶

名称：富士屋旅館
(登録対象：主屋・前門・石段・石垣)
所在地：大分県別府市鉄輪上1
建築年代：明治31年
登録：平成13年11月20日
構造：木造2階建(主屋)

◇富士屋の歴史

別府八湯は訪れる人に湯煙の里のイメージを与えているが、その中核ともいえるのが鉄輪温泉である。富士屋は鉄輪温泉の老舗で、明治31年(1898)に安波利吉が新館として竣工したものであり、別府最古の温泉旅館であった。

いでゆ坂を下り富士屋前の石畳道を通ると別府石を積み上げた板塀に囲まれ、石段のついた前門を入ると220年前に植栽されたというウスギモクセイ(県指定特別保護樹)の巨樹がその歴史を物語る。

寄棟造り棧瓦葺2階建、入母屋造の式台つき玄関に

迎えられると、各室とも銘木を使用した書院造の床構えが旧家の格式を示している。

当時避暑旅館として県内地方紙の人気投票で第1位の評価を受けた記事が明治35年発行の「大分県案内」に記されている。北九州の炭鉱王と呼ばれた麻生太吉や伊藤伝右衛門が別府の景観に心惹かれ別荘を造り、別府の発展に寄与したのも富士屋旅館を定宿としていたからである。

◇現在の富士屋

旅館としての富士屋は建築物の老朽化などを理由に平成9年より営業を休止したが、その後平成14年から民家再生の第一人者である降幡廣信氏の設計、(株)佐々木工務店(臼杵市)の施工により改修工事が行われ、平成16年に住宅兼ギャラリーとして再生された。

明治時代の客室の意匠を素直に残し、2階には多目的ホールが設けられ、別府の情報発信の場として音楽やアートのイベントが行われている。

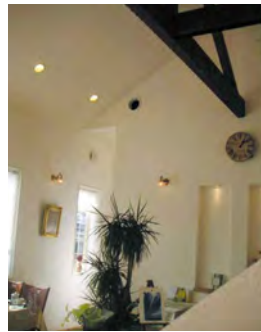
MY WORK

- ★建物名称 たまごキッチン ママン
- ★建築場所 大分県中津市中央町2-788-1
- ★建築主 小南 弘
- ★設計者 井堀工務店一級建築士事務所 井堀 仁智
- ★施工者 井堀工務店
- ★構造 木造2建
- ★規模 128.59㎡
- ★用途 喫茶、売店、ギャラリー

中津市の沖代平野の中央にある“ほたる通り”と命名された美しい小川のほとりは絶好の散歩コース。その風景に溶け込むような店舗にしてほしいとの要望だったので、田園風景に合うプロヴァンス風にした。



“たまごキッチン ママン”のコンセプトは“お母さんの手作り感” そのコンセプトに合うよう、建物にも優しさと清潔さを感じられるよう、色にも形にもこだわった。



ステンドグラス、中からもれるほのかな明かり、甘いお菓子の香り…散歩コースにくつろぎを与え、しばらくそこに立ち止っていたくなるような…そして、長い年月が経っても、また味わいの出るような手間をかけた造りとなっている。

- ★建物名称 田舎体験施設
- ★建築場所 中津市山国町藤野木
- ★建築主 中津市(旧山国町)
- ★設計者 (株)松山設計
- ★施工者 豊建設工業(株)
- ★構造 木造平屋建て 茅葺き
- ★建築年 明治14年
- ★面積 161.05㎡
- ★用途 研修施設(集会場及び店舗)

「麦わら葺き古民家に新たな息吹を」

地域活性化を考えると、当地方特有の麦わら葺き古民家の有効利用として、二十数年空き家であった農家を、農村文化を伝承する「田舎体験施設」として改修復元させた。



『改修前の古民家』



『改修後の古民家』

先人の残した歴史的遺物、茅葺き屋根の日本文化漂う本建物は、築百十余年経過した傷みと厳しい環境下の山国町谷間に、原形に基づく改修を行い、屋根は当時麦殻使用を茅葺きとし、穂先は美しい弧を描く。天井は小屋組及び既存大和天井を補修・補強して残し、室内の温度変化を当時のままとした。

また、当時の土間吹抜け部分には、わら・竹細工や田舎料理を体験できる、実演体験コーナーを設け、式台を踏み障子を開けると、当時の囲炉裏を囲む座敷を再現した研修室となっている。

今回の施設整備を記録保存すべく、着工前から完成に至るまでをDVDとビデオテープに作成し、今後古民家での文化伝承と施設紹介に広く活用することとなる。

松山 忠幸

MY WORK

- ★建物名称 愛情苑 女島
- ★建築場所 佐伯市女島5945-1
- ★建築主 社会福祉法人 長陽会
- ★設計者 サトー一級建築士事務所
- ★施工者 菅政建設 株式会社
- ★構造・面積 木造一部鉄筋コンクリート造
634.29㎡
- ★用途 デイサービスセンター
- ★設計主旨

当施設は、木造一部鉄筋コンクリート造(浴室部分)平屋建て建物で、介護予防の為に運動目的に建てられた車椅子対応の施設です。

外部は、屋根を土瓦、壁を漆喰塗り、腰を板壁、基礎を石貼りとし、内部の床は赤松、壁は漆喰塗り、天井は和小屋組みに登り梁で補強した小屋組みを化粧材として見出し、利用する人の心を和ませる空間としました。



- ★建物名称 住み心地のよい家
- ★建築場所 豊後大野市三重町内田
- ★建築主 赤嶺 城喜
- ★設計者 首藤工務店(有) 1級建築士事務所
- ★施工者 首藤工務店(有) 1級建築士事務所
- ★構造・面積 木造2階建 144.83㎡
- ★用途 専用住宅
- ★竣工 平成17年5月

★設計趣旨

本住宅は、「何よりも住み心地のよい家にしたい。」と言う施主の希望により、建物内の温熱環境を快適にするために、外断熱2重通気工法によって建てられている。

SCの家というこの工法は夏さわやかで冬暖かく冷暖房コストの節約に大きく貢献し、しかも小さな熱源で家中がどこもほぼ同じ温度に保てる。

又、床下や押入には備長炭塗料、壁天井には珪藻土にも備長炭シートをサンドしてもらうなど調湿性を高めより快適に過ごせるよう配慮した。

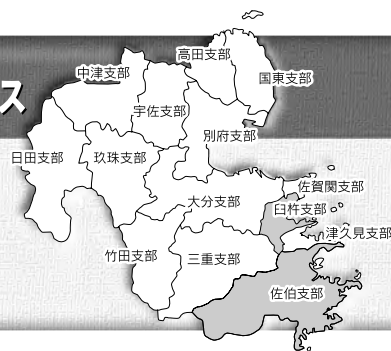


PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフルエンス

個人が他人に及ぼす影響力

会員紹介

(掲載については順不同です)



- ★生年月日 昭和48年10月11日
- ★勤務先 太陽建設工業株式会社
- ★趣味 サーフィン、テニス

★将来の夢、モットー等

一昨年より地元臼杵に戻ってがんばっています。
海も近いし、おいしい・・・。
伝統ある町並みの奥深さを知り、刺激を受ける毎日です。

建築って育てる物なのです。

昨日を今日を、今日と明日をつなげる、人間になりたいですね。



佐藤 賢市 (臼杵支部)

- ★生年月日 昭和53年2月11日
- ★勤務先 谷川建設工業株式会社
- ★趣味 ドライブ・小旅行
- ★将来の夢、モットー等

1年程前から、個人住宅の現場管理にも携わるようになりました。

それまで担当していた公共工事現場と違い、直接お施主様の声が聞こえるため、変更が多かったりなかなか工事が前に進まなかったり…。

でも完成物件を引き渡した時のお施主様の喜ぶ顔がそれまでのモヤモヤも流してくれます。

その味を占めた私は、まだ暫くはこの仕事から離れられそうにありません。

これからももっと沢山の現場で多くを学びたいと思います。



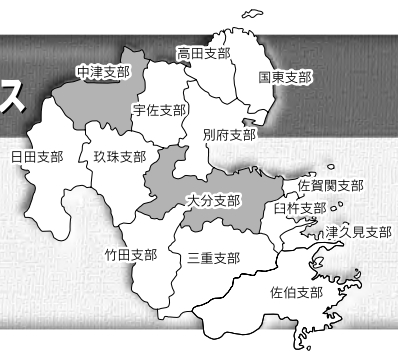
二宮 未貴 (佐伯支部)

PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフルエンス

個人が他人に及ぼす影響力

会員紹介

(掲載については順不同です)



- ★生年月日 昭和48年10月
- ★勤務先 (株)佐伯建設
- ★趣味 旅行 (知らない町を歩く事)
家具・雑貨集め・洗車
酒を飲みながらのサッカー観戦

★将来の夢、モットー等

建築士会の皆様、日々のお仕事大変御苦労様です。
建築士会に入会して早6年になりますが、今年、大分支部青年部に入り数々の催しに参加させて頂いております。我々、建築屋。似た様な理想郷を追い求めるみんなが集まって、語り合い活動するのは、本当に楽しいものです。

青年部の皆様これからも宜しくどうぞ。

私、生粋のいごっそうな土佐人ですが、大分と高知を比較した場合、建築を通じての街並づくりや観光地の活性化、建築後継者の育成、又、娯楽を含めたスポーツ振興等、大変大分を見習うべき部分が多くあります。これからも建築を通し大分の文化に沢山ふれあい、自分の財産にしていきたいと思ひます。



▲フェルミニの教会にて

山崎 豊史 (大分支部)

解説：いごっそう (異骨相)

高知弁。「頑固者、偏屈者」の意味で、悪い意味での「偏屈者」というより、「頑固だが憎めない」というような、愛着の意味がある。

ユーモアこそ「いごっそう」の基本要素で、土佐の男性的大らかさを含んだ言葉である。

- ★生年月日 昭和46年7月22日
- ★勤務先 中津市役所総務部まちづくり推進室
- ★趣味 サッカー (2級審判員・インストラクターの資格有り)・パソコン弄り

★将来の夢、モットー等

はじめまして！ 岩尾といいます。

私は、設計・建築の経験も資格もない人間です。

その私が、今回入会させていただくようになりました。正直私もびっくりしています。

現在の職場に異動になったのが、平成16年4月。しかも新設された職場でした。何も判らないままに上司と挨拶にいったのが、当時の支部長でした。それから、建築士会とまちづくりについての意見交換が始まりました。そして、建築士会の視察に参加してもらったり、市の取り組みに参画してもらったりし、いろんな会員の方と話をするなかで、まちづくりに対する強い思いが感じられました。そして土塀の復元、諸町の建物調査などで、物をつくる楽しさ、古き建物のすばらしさを知りました。私の実家も田舎で、家は古い建物ですが、こんな見方をしたことはありませんでした。

こうした経験が現在の仕事の役にたっており、現在では、いろんな団体と交流するなかで仕事が進められ、「やりがい」を感じています。

もっと経験をしたいと入会したわけで、そんな私が入会しても何もお役に立つことはなかろうかと思ひますが、よろしくお願ひします。



岩尾 雅広 (中津支部)



白杵がポルトガルになった夜 松田美緒 ファド・コンサート

臼杵支部 赤嶺 竜一
平成17年10月18日(火) 久家の大蔵(臼杵市浜町)にて、たくさんの皆様に、聴いて頂き、臼杵で初のファドのメロディが響きました。自分自身が酔いしれました。

松田美緒さんも、独特な雰囲気の大蔵で、皆さんの顔つき、目の色が、進行するにつれ、変わってきて、どんだんって歌えた ということでした。彼女自身も、それこそサイコーだよ！の臼杵の夜になったようです。リスボンの夜をどこか思い出させるような、八町大路の夜灯と、家並みもお気に入りのようでした。



ワインを飲み、イワシを食べながら(ポルトガルではこれが当たり前で

す)本場のファドの雰囲気、美緒が歌える“c a s a do f a d o”を是非臼杵に建ててください！と最後にいわれました。10年は掛かるので、もうちょいと待っちゃかんし、と答えましたが、いつか実現させたいという気になっています。(FAN・T氏談)



ライブスタッフの方々と、なにかと、コント・ソンドメンバーとのつながりがあったりしまして、コンサート後も大変盛り上がった夜でした。

ぜひ皆さんも、ライフワークミュージックの1枚として彼女の音楽を。



松田美緒 まつだ みお

◇秋田県生まれ、九州・京都育ち。

大学時代にアマリア・ロドリゲスのファドに出会い、ポルトガル語を独学で学びながら歌い始める。2001年ポルトガルを初めて訪れ、リスボンのモウラリアに住み、アルファーマなど古い地域の庶民のカーザ・ド・ファド(ファドハウス)やレストランで歌い、生きたファドの文化を現地の人々との深い交流を通して学ぶほか、国営テレビ番組で歌う機会も得る。

2004年7/25-8/3 ブラジルのミナス・ジェライス州で行われるポルトガル語圏の音楽文化の祭典プロジェクト"Festa de inverno(冬の音楽祭)"に、ポルトガル代表のヴォーカリストとして参加。彼らのオリジナル曲やファドやモルナをポルトガル語とクレオール語で歌う。

10月ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで1stア

ルバムをレコーディング。

持ち前のコスモポリタン精神で心惹かれる音楽を現地で吸収し、国境を感じない音楽を追い求め、活動中。

2005年8月24日発売

Atlantica

アトランティカ

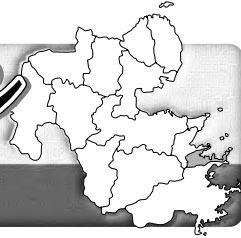


大西洋から届いた 声 リスボン、カーボ・ヴェルデ、リオデジャネイロ...

海を渡ったサウダーデ(郷愁)の歌姫、待望のデビューアルバム!

エボカ・チ・オウロ(カフェ・ブラジル)のホジェリオ・ソウサをプロデューサーに、ブラジル、ポルトガルを代表する豪華ミュージシャンとリオでレコーディング!!

アルバム VICP-63039 ¥2,800(税込)/ ¥2,667(税抜)



ホバークラフトの製作

津久見支部 姫野 総一郎

いよいよ今年も「ふるさと振興祭」の準備がやってきた。ひととおり他の作品の製作を終えてからホバーにとりかかろうと思っていましたが、見事に時間切れ。残された3日間のうちに製作となりました。

去年までの3号機は運搬のことを考え、長さより幅をかなり狭く作ってあったので横方向の安定感が悪く、コーナリングで苦勞したので、今年は長さと同じ寸法（1800mm）にし、安定感をとり戻すように製作しました。かなりの重量増はあったものの狙いどおりの安定感だったよう思います。そのかわり、操縦者（前後左右もロープでコントロール）への負担はかなり大きく、溶接用の皮手袋も2日で穴が開きました。今後こそ自走式に・・・と毎年思うのですが、会場の事情や子供達の安全を考えると、どうしても・・・（本当は、ただの時間切れ・・・？）

今年は例年にも増して作業の参加者が多く皆でわいわい楽しく作業ができました。



先端部の仕上げを工夫しています

【…毎年の事ながら少しでもカッコ良く仕上げるための工夫は一苦勞です…】



完成まであと一息になりました

ある意味では定着した（マンネリともいう）感のあるわが津久見支部のホバークラフトですが、今年もかなりの人気で常に20人前後の子供たちがまわってくれ、最終日は、受付打ち止めとなりました。



水平器を使って斜線の確認中

もう今度で終わりかな？とか操縦するのが大変だろうなとか不安にかられながらの作業ですが、子供達の笑顔を見ながらロープを操縦するときは本当に報われる気持ちです。来年の子供達の笑顔を思い、今度こそ自走式にチャレンジしようと思っています。

最後に忙しい中作業に参加して下さった津久見支部会員の皆さんにお礼を申し上げます。



ふるさと振興祭について

津久見支部 迫村 伸一

津久見支部では、去る平成17年10月29日(土)30日(日)の2日間、毎年津久見市が主催する、ふるさと振興祭に出店参加しました。今年につくみん公園に変更になりました。埋め立てに出来た公園で、津久見市で一番大きな公園、遊具など新しい公園です。



【フレッシュガール「愛ちゃん」と作品】

ふるさと振興祭は、今年で第23回を迎えています。津久見支部は、第4回から出店していますので、かれこれ20年です。ふた昔前からの長〜いお付き合いです。その時のメンバーが替わらずに居るのでから考えてみればスゴイ事です。津久見支部の仲間はずばらしいから続いているのです。「継続だけが力成り」よく言った物ですね。

今年、「おおいた子ども大工道場」津久見大工Kid'sを津久見支部が受けていて丁度重なり、皆さん大変忙しい中週3回の月・水・金曜日のPM7:00に、姫野組の作業場に集まり木工製品の加工製作をしました。

内容としては、重ね収納が出来るイス・ゴミ出しのカート・携帯電話などの小物入れ・重ねることのできる小物入れガラス天板付き・パソコンの台など超破格値で販売しました。

工作教室では、親御さんと一緒に子ども達が慣れない手つきで釘打ちや鋸引きをして、作品作りをしました。いつもながら、ほほえましい姿を見られて苦

労した甲斐があったナーと、この時ばかりは幸せな気分になります。今回気づいたのですが、子ども大工に参加しているメンバーの釘打ちが数段上手くなっている、他の子どもとは全然違ってきたなと思いました。やはり技術はくり返しがなせる技だと、見せてくれました。



【工作教室で一心不乱の子供たち】

展示コーナーでは、津久見大工Kid'sの写真を展示しました。皆さんじっくりと見てくれていました。(何処に作っているの?)など聞かれました。津久見の山から杉丸太を切り出し、津久見市に唯一の川野製材所へ杉丸太を運び製材機に乗せて材料を作ったりした事など展示の写真を指さしながら説明をしました。(エー、そこからしているの)と驚いていました。津久見小学校の教頭先生が立ち寄って下さいました。このような写真を『津小つくつくフェスタ』に展示して欲しいと言っていました。津小つくつくフェスタ11月27日に写真の展示で参加しました。

皆さんのご協力で「おおいた子ども大工道場」津久見大工Kid'sの建物は完成しました。小学校・PTA・職人さん・会社のご協力で良い物が出来ています。やはりネットワーク・人とのつながりは、とても素晴らしいと思います。

昨年からの取り組みで高齢者住宅改修の無料相談会をしました。今年は相談者が数名来ました。去年は1名も来なかったのに良い方向に向かっている感じがします。今年、デスクトップパソコン1台とノートパソコン2台を持ち込み、津久見支部もハイテクに成ったナーと思いながら住宅改修のビデオを流し、津久見支部のホームページを紹介し、「おおいた子ども大工道場」津久見大工Kid'sのビデオCDを作成し紹介しました。足を止めて見てくれるお客さんもいました。言う物は、なかなかお祭りには馴染めませんが、やはり継続して情報を発信していけば、必ず誰かが見てくれる。懲りずに継続していくことが大切です。何せ「継続だけが力」なのですから。

毎年恒例、津久見支部のホーバー4号機を新たに製作しました。

平成13年に1号機を製作して以来、毎年走行しています。1回50円も平成13年から変わりません。変わらないって良いことかも・・・。今年の4号機は、今までで一番大きな機体です。滑りも一番安定していましたし、場所が広がったので大きく動かすことが出来ました。延べ200人の子ども達が乗ってくれました。ホーバーは見るのと乗るのでは全然違います、私達は、横滑りの経験がありませんので変な感覚です。一度乗ることをおすすめします。浮いた感覚を是非体感して下さい。しかし、現場で使うプロアーで良く浮く物だナーといつもながら思います。バイクのタイヤ3本で浮いているのですから、大きなタイヤチューブが欲しいです。近頃の車のタイヤはチューブレスなので車のタイヤチューブ（無料）が手に入りません。全体にスカート履かせたらもっとスゴイのに、と思うのです。操縦担当の方、ご苦労様でした。よく見たら革の手袋がすり切れて穴があいていました。平成13年1号機から平成17年4号機まで津久見支部製作ホーバーの歴史のページが有りますので詳しくは津久見支部ホームページをご覧ください。

<http://www.bungo.or.jp/~t-shikai/>

津久見支部ホーバーの取り組みは、まだまだ続くのでしょうか？会員にも判りませ〜ん...

子ども達の喜ぶ笑顔を見るとやめられませ〜ん。そんな気分です。



【ホーバーに乗船中の得意顔・操縦は大変】

津久見湾一周クルージングに参加して見たいナーと2年くらい前から、思いはあったのですが何せ副支部

長から支部長でしたし又仲間達が一生懸命しているのになかなか参加できませんでしたが、今年支部長を交代してホームページ委員長をしている事もあり、是非ともクルージングに参加して写真を撮りたいという気持ちの方が大きくなりました。事前に申込みをしておかないと参加できない事を知っていましたので、仲間には悪いが、後ろ髪を引かれる思いでしたが、「よし行こう」とふんぎりを付けて参加しました。あいにく、曇っていましたが仕方ありません。日頃の行いは良い方ですが、仲間が写真を見て一緒に参加した気分になればと思いながら写真を撮りました。船にはガイドさん付きで津久見市を紹介しながらのクルージングですので、余計によそから来た人みたいな気分。いつもの視点ではなく、海上から津久見を眺めると不思議な感覚がしました。日頃自分が住んでいる所をちょっとですが外から見たら景色はもちろん違いますが、言いようのない何か変な気分になりました。決して船酔いではありませんよ。

やはり、物事は、ちょっと引いて、外から眺めると見えてくる物がある。

日頃では、津久見は人口が減る一方だし、映画館はないし、その他いろいろマイナス思考で先細りだなーと思っていましたが、けっこう津久見は、良いところ、リアスの海岸、海の幸・山の幸は有るし、自然がいっぱい、日本一の工場がありゴミの問題もうまい取り組みをしている（固形燃料）し、港も深く大きなタンカーも入れるすばらしい港だし、津久見のみかん・おおたのぎよろっけ・保戸島のマグロ・ひじき飯・津アジ・津サバ・無垢島のいなでのんぶら・ウニ・椿・化石の宝庫、全国でもめずらしい扇子踊り・1尺2寸の花火大会もすばらしい。プラス思考で考えると上げたらきりがなくらい、こんなすばらしいところに自分達は住んでいるのかと、先輩達が残してきた物を私たちがうまくこれから取り組めばもっと良い津久見市が出来そうな予感がしました。津久見市も合併問題が有りますが、津久見は津久見なりの特長・特性を生かした、まちづくりを考えて行かなくては、なども思いました。今回津久見湾一周のクルージングに参加して、得る物が多かったと思います。思い切って参加して良かった。やはり発想即行動ですよね。家族サービスも出来てホントに良かった。2年越しの夢が叶いました。

皆さん是非、美味しい物や自然がいっぱいの津久見市へ遊びに来て下さい。

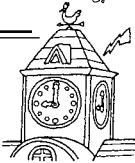
訂 正

秋季号で参加21回と掲載しましたが20回の間違いでした。お許しください・・・

津久見支部 竹田



旧三重町南小学校の話



三重支部 後藤 康仁

今回は、三重支部内の木造廃校舎の跡地利用について少し触れたいと思います。

昭和25年に建設された豊後大野市三重町松尾の南小学校は平成11年度に地域児童の減少に伴い第一小学校と統合されました。

しかし、戦後建てられた木造校舎とその敷地は山間の集落の中心に位置し、長い間、児童のみならずその地域の交流の場として活用されてきた側面も持っていました。



手前には小川が流れ、今でも夏にはキャンプや川遊びにもよく利用されています。

外観的には板壁の鎧張りに赤い屋根瓦が印象的で、その外観から校舎は「赤い屋根」と親しまれてきました。



旧南小学校全景

一方、この小学校を有する松尾地区は山間にあり、農林業を主としています。他の山間部と同様に少子高齢化及び過疎化の問題を抱えています。



松尾地区

休校が決定した時、使用されなくなった廃校舎の痛みが進み、地域のシンボルとしての機能を失う事、そして求心力の低下により地域の交流が減少することに地域住民は強い危機感を抱きました。そのため、休校の際、建物を今後の地域の活性化に利用出来ないか地域で話し合いが持たれました。その後、この地域活動は少しずつ広がりを見せ、平成14年度には地域において南小学校跡地利用推進協議会が結成され、廃校舎の利用計画を地元地区住民が組織として本格的に協議を始めるに至りました。



平成16年度には様々な有識者を交えてのワークショップが数回催され、神楽などの伝統芸能、間伐や農作業体験、地元の食材を利用した手料理など地元の人々が気づきにくい、この地域が持つ魅力を指摘されました。都市にない豊かさがこの地域にはあると皆が認識し、校舎の活用方法の可能性が広がりました。



航空写真

こうして広がりを見せた協議は現在、まとまりをみせつつあり、今後の活動の基本方針としては、「廃校舎を宿泊交流施設として再生させ、圏域内住民や都市住民との交流を図ろう」となっています。

「まなぶ」ことを主題とし、第一ステップとして

- 圏域内の子ども達には炭焼きや神楽体験など様々な体験学習を催して地域の伝統の継承につなげていく。
- 都市住民にはエコーツーリズムの実践を目指し、田舎の生活を体感してもらう事により、地域の文化を理解してもらいかつ情報発信につなげていく。ことなどを目指しています。

この他にも様々なアイデアが生まれつつあり、校舎を活用するイベントが現在も行われています。

山間の小さな地域の中で愛されてきた木造校舎が、地域住民の熱意により新たな交流を生む場として生まれ変わろうとしていると強く感じました。

地域のシンボルとして親しまれてきた木造校舎の跡地利用の事例として興味深いと思います。



『まちづくり研究会』 のご紹介

別府支部 岡田 宏基

◇私たちの活動方針

別府支部では現在25人のメンバーが「まちづくり研究会」に所属しています。

今までに歴史的建築物の保存活動などを行っていますが、実は私たちが大切にしている活動方針は次のようなものです。

☆まず自分が活動を通じて楽しむこと。まちづくり研究会のすべてはそこから始まります。がんばろうとか思わずに気楽にやりましょう。

☆大事なのは事業を消化するための活動でなく、「これがやりたい」活動をする事。

迷ったら楽しい方向に行きましょう。

◇研究会の発足

発足のきっかけとなったのは平成15年の日出町深江地区の「襟江亭」の保存運動でした。

当時、全国で唯一現存する「風待ち茶屋」にもかかわらず取り壊しの危機に瀕していた襟江亭を未来に残そうという話を受けた別府支部の浅野・三ヶ尻両会員が、「保存運動のためには、建築にたずさわる多くの人の力が必要だ」と感じ、別府支部の会員に呼びかけたのがまちづくり研究会の発足につながりました。

すぐに呼びかけに応じたメンバーが集まり、設計・施工・創作活動など、それぞれが得意とする分野での協力体制を作り、活動が始まりました。

今までの主な活動の概略を以下に示しますが、この他にも様々なイベントへの参加も行ってきました。

平成15年

4月 襟江亭の修復保存について所有者の承諾を得る。

8月 研究会発足・第1回例会

9月～11月 襟江亭現地実測・町並み調査など

平成16年

6月 若宮八幡社 現地調査・報告書作成

7月 襟江亭瓦・土降ろし～瓦の保存と屋根の養生作業

- 9月 襟江亭現地実測・図面作成
- 11月 深江まちづくりシンポジウム参加

- 平成17年
- 7月 別府にて第1回まち歩きを実施
- 10月 同第2回まち歩きを実施



まち歩きのスナップ



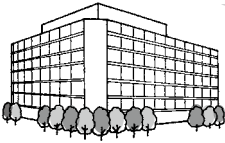
まち歩きで聴潮閣を見学



活動後の打ち上げ（楽しむことが大事です）

◇今後の活動

現在は襟江亭・若宮八幡社の活動も一段落し、今後の活動を別府市内で行おうという機運が高まっています。そのためまずは自分たちの目でまちを見て歩くということで、今年は2回のまち歩きを実施しました。その成果もあり、会員から具体的な提案が出てきているところです。近いうちに新たな活動のご報告が出来るものと考えています。



鶴崎市民行政センター 植田市民行政センター オープン

大分支部 足立 心也

11月7日に大分市の鶴崎市民行政センター並びに植田市民行政センターが同時にオープンしました。この2つの行政センターは、大分市としては初のPFI (Private-Finance-Initiative) を導入して建設された施設で、主な入居施設は、大分市の支所、資産税事務所、保健福祉センター、図書室などです。先日、このPFIの勉強会ということで、オープン前の鶴崎市民行政センターの見学に行ってきました。



鶴崎市民行政センター

まず、PFIとは何なのかということですが、市の職員の方の説明によると、公共事業を、民間の資金・経営能力・技術力（ノウハウ）を活用して、公共施設等の整備を行う手法のことだそうです。

要するに、公共事業をこれまでのように行政が細かく決めて行っていくのではなく、民間に事業を一括してまかせることによって、安く質の良いサービスを提供することが出来るようになるということです。小泉首相が郵政民営化のことで頻りに言っていたように「民間にできることは民間に」ということでしょうか？PFIは民営化とは違いますが…



勉強会の様子（1階ホールにて）

さて、今回PFIを導入したことで、具体的にはどのくらい効果があったのでしょうか？

ここで鶴崎市民行政センターを例に挙げてみますと、従来の公共事業としてこの施設を整備した場合の事業費は、約37億6300万円掛かると試算されていました。これに対し、PFI事業として整備した結果、事業費は、約30億500万円。なんとその差額約7億5800万円！PFI事業として整備することでこんなにコスト削減ができたというではありませんか！



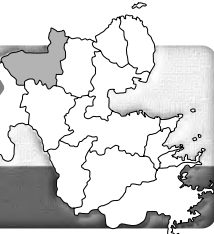
吹抜け

実際はこれから行われる施設の維持管理・運営といった業務に関するお金もこの事業費の中に含んでいるので、金額の変動はあるかもしれませんが、それと従来の手法で事業を行った場合の事業費は、あくまで試算でおおよそ目安でしかないため単純に比較をすることは出来ませんが、かなりのコスト削減になったことは間違いないでしょう。PFI事業の効果をより正確に知るためには、その比較対照となる従来の手法で本当にどれくらい事業費が掛かるのか、ということを出来るだけ正確にはじき出す必要があります。



見学会の様子

PFI事業は、事前の手続きに時間がかかったり、あまり事業自体が大きくない場合は、効果が出なかったりと、必ずしも良いことばかりではないようですが、今回の事業でその効果はある程度実証されたため、今後行われる公共事業に導入が検討される可能性は高いのではないのでしょうか。



中津市金谷上ノ丁友松邸 「土塀」復元作業 Part.2

中津支部長 梶田 康男

前は金谷地区の地割りについてと、土塀復元作業の「解体」「土ブロック作り」「自然石積み」までを紹介しました。今回は、土塀復元までの工程を紹介します。

○土塀本体の作成



型枠から取り出した土ブロックを土ブロックの材料と同様の赤土に砂とセメントを混ぜたものをつなぎ材として当初3段積み上げ、傾合いを見て、1週間後、残りの3段を積み、計6段で所定の高さを確保した。土ブロック2段ごとに間隔45cmでシュロ縄を長くたらし挟む。これは、土ブロックの表面にあつて、ブロックとブロック、ブロックと表面材（下塗り土）のつなぎ補強材となるものである。

○屋根瓦葺き



土ブロックの上に木を配し土で止め、瓦葺の止め材とする。瓦は寸法的な意味から軒先瓦を使用したため

小巴がついた。棟部は、のし瓦、かぶせ、半丸瓦で仕上げる。

○土塀下塗り・中塗り



土ブロックの積み上げから1ヶ月程度放置し、よく乾燥させた後、土ブロックの表面の浮いた土を削り、水洗いをして浮きやほこりを落とし、樹脂の接着剤を塗布した。接着剤の塗布は、単に本体と表面材の接着のみならず、本体の経年による劣化も保護する。材料の土には、藁の柔らかい部分を補強材として混入し、シュロ縄は、土ブロック積みの時のものと、さらに竹釘で止めたものを加え補強した。

下塗りの乾燥状態を確認し、接着剤の塗布、その上から少量のセメントと新しく藁を混入した赤土の中塗りを行い、乾燥収縮によるひび割れ、強度不足を補うためグラスウールのメッシュを塗り込む。



○土塀上塗り



中塗りの乾燥状態を確認し、セメントと接着剤を混入した赤土で上塗り（仕上げ）を行う。赤土にセメントと接着剤を混入するのは、表面で風雨にさらされ経年による劣化を防止するためである。

第20回豊の国木造建築賞

最優秀賞



建設地：日出町
 用途：住宅
 建築主：深町 勝幸・真由
 設計者：三ヶ尻一級建築士事務所
 施工者：(有)浅野建設
 延面積：158.10m²

【作品のポイント】

和風でもない洋風でもない、現代日本人の日本らしい住まいを提案。

- ①構造美 在来木造でしか出来ない木の軸組の美しさをデザイン。構造＝意匠の考え方こそ木造の原点。
- ②構成美 職人の手仕事に依るので、一つ一つの寸法はまちまちでも、造りあげられたときに全体として美しく構成。
- ③自然素材 地元産出の材料を出来るだけ多く使う。その土地の気候風土にあう材料は、その土地で育ったものが一番。

優秀賞



建設地：中津市
 用途：住宅
 建築主：横松 宗・知子
 設計者：一級建築士事務所すまい設計工房
 施工者：(株)梶原組 (株)豊工務店
 延面積：220.1m²

【作品のポイント】

中津市金谷には、下級武士の街の地割りがほぼ全域に維持され、わが国の近世城下町として稀な事例である。この街並みを保全し新しい住宅地として再生を図ることが本設計の目的である。

「金谷の家」は複合の用途計画があり、敷地条件として地割りが3コマあった。このたび、1期工事・東側敷地の書庫+離れと2期工事・中央敷地の住宅が完成した。西側敷地も将来の住宅用地である。

土堀は金谷の街路景観の重要な要素であるため、駐車場を除く道路堀と地割り境界で復元した。施主は高齢のため、随所にバリアフリー設計を行い、長年暮らした住宅の主たる使い勝手を導入し、記憶の継続を可能にする設計を心がけた。

優秀賞



建設地：日田市
 用途：住宅
 建築主：佐藤 紘之
 設計者：1級建築士事務所清水研究所
 施工者：直 営
 延面積：120.25m²

【作品のポイント】

親の代から住んでいた町中の住まいを、定年を機に建て直すことになった。土蔵を修理して残し、生垣以外樹木も残し、出来るだけ思い出の手がかりを残した。県内を原産とする杉材(ヤブクグリーンタロー)を構造材から仕上げ材まで骨太、肉太に使用し、プレカット加工ばかりでなく、松丸太の曲げ強度に勝るとも劣らないインタロー丸太の梁等は、あえて、地元の大工の手加工による伝統的納まりとし、強度確保と共に、ささやかながらも技術伝承の場とした。屋根、外壁とも30mmの杉板と通気層、断熱材(合成土)をはさんで、15mmの杉板の上に仕上げをし、化学的建材はほとんど採用しなかった。バリアフリーを含めて、良好な室内環境と共に、建て主の思い入れは、玄関土間のタタキのムシロ目に、職人の熱意は土蔵のレリーフに、建物と共に残っていくことなのでしょう。このことが可能になったのは、一括請負に任すのではなく、設計士が自らCMの立場に立ち、価格の見える住まいづくりを主導するオープンシステム方式によったためである。地域の素材と地域の技術と建て主を直接結び付け、住むほどに愛着が増し、建てるほどに周囲の環境が整っていく古くて新しい住まい、つまり新築家造りの提案である。

優秀賞



建設地：日田市
 用途：道の駅
 建築主：日田市長 大石 昭忠
 設計者：(株)エム環境デザインシステム
 施工者：(株)中野組
 延面積：880.01m²

【作品のポイント】

本施設は、ワークショップにより、地元住民と一緒に地域全体のまちづくり計画とこの施設の基本構想を作成した。この構想を基に実施計画を創った。具体的には次のような特徴を持たせ、施設全体が川や時の流れを現すシンプルなデザインの中に“大山らしさ”を表現した。①国道から視界の開ける場所にあるため、遠くからも分かりやすく、立ち寄りたくなる施設となるよう、レストランと外部便所に大きなトップライトを設け、シンボリックな建物とした。トップライトから内部に明るく優しい光を落とし清潔感のある空間が創られ、夜にはそこからもれる光が施設の目印となる。②周辺環境を活かし、川へ向かって施設を開き、目の前に広がる大山ならではの自然景観を最大限に取り込むよう計画した。また、車騒音防止のために国道側は閉じつつ、敷地入り口にピロティを伸ばすことで、人の流れを引き込むよう意図した。また、細長い敷地形状を活かし、曲線を描いた施設配置により、シークエンスのある景観が楽しめるよう配慮した。③構造材には日田杉を用い、在来工法に鉄骨や特殊金物を用いたハイブリットな構造とし、木の暖かさ、木組みの美しさを活かしたダイナミックな空間造りを実現している。④外壁及び内壁は日田杉の板張りとした。⑤トップライト頂部に換気窓を設け、自然の空気の流れによる換気・温度調整を可能にしている。⑥木以外にも内装に珪藻土などの自然素材を用い、健康的でエコロジーな施設とした。⑦入り口にスロープを設け、多目的トイレを4箇所、子供用ストールや手洗いの設置、光の降り注ぐ清潔なパウダーカウンター、授乳室の設置など誰もが快適に過ごせるよう配慮した。

第20回「豊の国木造建築賞」受賞作品一覧

賞	建築主	建物所在地	用途	設 計 者	施 工 者
最優秀賞	深町 勝幸 真由	日出町	住 宅	三ヶ尻一級建築士事務所 三ヶ尻勝 速見郡日出町大字豊岡6149-3 TEL 0977-72-8668	(有)浅野建設 浅野松治郎 速見郡日出町大字川崎523-2 TEL 0977-72-5960
優秀賞	横松 宗 知子	中津市	住 宅	一級建築士事務所すまい設計工房 横松佐智子 鎌倉市長谷5-6-28 TEL 0467-25-3119	(株)梶原組 (代)梶原克己 中津市大字上宮966-2 TEL 0979-22-9471 (株)豊工務店 (代)瀬口雅之 中津市殿町1396 TEL 0979-22-3271
	佐藤 紘之	日田市	住 宅	1級建築士事務所 清水研究所 清水征政 日田市淡窓2-2-4 TEL 0973-22-4253	直 営
	日田市長 大石 昭忠	日田市	道の駅	(株)エム環境デザインシステム (代)村田義郎 福岡市中央区大名2-4-5 丸美ビル501 TEL 092-771-3700	(株)中野組 (代)中野友徳 日田市下井手90-1 TEL 0973-23-6135
特別賞	【住宅金融公庫南九州支店長賞】 宮崎 哲男 大分市 別府市田の湯町3-7 ラサホームズ(株) (代)豊久伸彦 TEL 0977-22-0004	住 宅	(有)木無量アソシエイス 早川謙一 大分市千代町3-1772 アーバンベルテ千代町102号 TEL 097-513-5507	大分県zikiltguild企業組合 (代)豊久伸彦 別府市田の湯町3-11 TEL 0977-23-6711	
協賛賞	【大分県建設業協会賞】 亀井 孝志 臼杵市	旅 館	(株)降幡建築設計事務所 所長 降幡廣信 松本市島立1095 TEL 0263-48-2222	(株)佐々木工務店 (代)佐藤利正 臼杵市市浜中通り651-2 TEL 0972-63-1558	
	【大分県建築士会賞】 安倍 仁 大分市	住 宅	(有)アトリエ・ラッツー級建築士事務所 (代)古後信二 大分市上宗方1996-1 K-SOH0202 TEL 097-542-7430	直 営	
	【大分県木造住宅事業協会賞】 日高 正吉 佐伯市	住 宅	井上一則・空間工房 井上一則 佐伯市中の島2-21-18 山口ビル3F TEL 0972-23-6533	戸高建築 (代)戸高清夫 佐伯市蒲江大字蒲江浦4798番地 TEL 0972-42-0572	
	【大分県木材協同組合連合会賞】 吉田 俊秀 宇佐市	住 宅	(株)安藤剛設計室 (代)安藤剛 豊後高田市界633-2 TEL 0978-24-3600	(有)アラカワハウス (代)荒川住夫 豊後高田市森484-1 TEL 0978-24-1809	
	【大分県森林組合連合会賞】 衛藤 真司 別府市	店 舗	糸永建築設計事務所 一級建築士 糸永正太郎 別府市実相寺3-3 TEL 0977-25-3948	ミナモト建設(株) (代)小野源太郎 別府市大字南立石426-1 TEL 0977-25-6010	
	【大分県住宅供給公社賞】 岩田 直樹 大分市	住 宅	アーキテック・一級建築士事務所 常廣竜也 大分市明碩町5-7-102 TEL 097-544-1917	(株)竹内工務店 篠田正治 大分市舞鶴町1-12-19 TEL 097-536-2323	
	【大分県建設合同労働組合賞】 安藤 高広 佳代子 豊後高田市	住 宅	(有)徳永敬之設計工房 徳永敬之 福岡市中央区薬院4-8-28-1003 TEL 092-523-5792	こうの建築(有) 河野修身 豊後高田市梅木1252-5 TEL 0978-27-3924	
	【大分県職業能力開発協会賞】 玉田 信行 臼杵市	ギャラリー /カフェ	一級建築士事務所たかせ ao 高瀬幸伸 津久見市中央町6-15 TEL 0972-82-1203	直 営	
	【大分県建設組合連合会賞】 椎原 哲郎 臼杵市	住 宅	(有)足立建築事務所 足立信治 臼杵市江無田239-3 TEL 0972-63-3759	(有)足立建築事務所 足立信治 臼杵市江無田239-3 TEL 0972-63-3759	
	【大分県建築設計事務所協会賞】 羽田 篤夫 大分市	住 宅	(有)尾方設計一級建築士事務所 一級建築士 尾方秀則 玖珠郡玖珠町帆足299-11 TEL 0973-72-2662	ミナモト建設(株) (代)小野源太郎 別府市大字南立石426-1 TEL 0977-25-6010	
	【大分県木材商業協同組合賞】 秋吉 重子 湯布院	店 舗	川野雄二住宅設計室 川野雄二 大分市上野丘西23-14 TEL 097-546-6594	アラキ建設 荒木義人 熊本県阿蘇郡小国町下城536-1 TEL 0967-46-5703	

平成16年度 まちづくり活動助成事業完了報告

～竹田支部～ 「直入町のまちづくりを考える」

竹田支部 山浦 一光

現在町の湯の原地区の背後を東西に縦貫する県道庄内久住線のバイパス工事が平成19年度完成に向けて着々と出来つつあり、一部は共用開始しています。

当該道路の早急な整備が広域的な観光振興並びに地域産業の活性化に大いに貢献するものですが、反面女性、高齢者、観光客が利用するいわゆる「たまりの空間」の機能を持つ施設「駐車場、休憩所、地域交流施設」がこの沿線には不足している現状です。

又、町の中心的役割を担ってきた役場庁舎が町外れのドイツ村に新築移転した為、町の中にぽっかり穴が開いた状態となっています。



一部開通のバイパス



工事中のバイパス旧役場付近

町では商工会、町民代表が中心となって行政を交え直入町まちづくり実行委員会を立上げ、町づくり構想の一つとして町のアクセス道路の役割を併せ持つ小さな道の駅を情報交換拠点として建設したいと道の駅基本計画案を建築士会竹田支部に依頼して来ました。

竹田支部では会員の代表を委員会に出席させ、皆さんの要望を聞き、町の調査をし、計画会議を持ち最終的に委員会に承認を頂いた計画案を直入町まちづくり実行委員会に提出した経緯があります。



町づくり会議

日本一の炭酸温泉として多くの湯治客を迎えていた長湯温泉も時代の流れと近隣の町に温泉施設が次々と出来た為、他の温泉地との競争が激しくなっている状況にあります。この状況を打開するには、車社会の現在では便利なアクセス道路が必要皆無となっています。温泉街の人々が建設を望む「道の駅」の多くは町から離れた主要幹線道路沿いにあります。

このことは、その町に行く人達だけのものではなく、その道路を交通手段として通りかかった不特定の人々が利用出来る休憩所、トイレ、物産販売所、観光案内所を兼ね備えた施設となっています。バイパス沿いにはありますが、旧役場跡地は町の中心にあり道の駅から先にどれだけの人々が町に流入するかは出来て見ないとわかりませんが、必要とは思いますが。

町が目指す町づくりのテーマは大正ロマンですが、これに向かって進むならば先ず街並みの景観、修景に制限を課す必要が生じてきます。

町には保存条例等は無く自由な発想で古い温泉施設

が復元改修しているものもある反面、独特の個性と存在感を持つ建物もかなり建てられておりますが、周囲の風景に溶け込んでおり町のシンボルとしての存在感があることも事実です。



芹川沿いのラムネ温泉

このような建物は長湯温泉の特徴を出しているとしたら町の活性化に一役かっている事になるのではないのでしょうか。大正ロマンに固執する必要も無いように思われます。

温泉街は古くからの街並みで道路は狭く曲がりくねっており、観光客が増えれば交通混雑をを引き起こし地域住民に迷惑をかけるとともに交通事故も懸念されます。

まずは観光客専用の駐車場の整備をし、車の乗り入れを少なくするとともに芹川を中心とした歩行者専用通路や自転車専用道路の整備を行い、気軽に安心して温泉街を散策出来るようにするべきだと考えます。

又、町の中心部に足湯、休憩所、トイレ、観光案内所を備えた誰もが気軽に利用出来る小公園を併せ持った施設も必要ではないのでしょうか。



一部開通のバイパス



町づくり会議

「日本一の炭酸泉の温泉地」にふさわしい街並みにはまず環境整備が急がれますが、これには住民の町づくりに対する意識が必要で、身近なこととして芹川の清掃事業などを通して住民参加のワークショップやイベント開催が望まれ、気軽に皆が参加できる体制が商工会を中心に活動を広めていくことが町の活性化につながり町づくりへと発展すると考えます。

我々支部会員もこれまで携わってきた竹田の町並づくりの経験を生かし、直入町の町づくりにも積極的に参加し、少しでも手助けが出来る様今後も活動をして行きたいと思えます。



温泉街の芹川

平成16年度 まちづくり活動助成事業完了報告

～別府支部～ 日出町若宮八幡社楼門 現地調査と報告書作成

別府支部 岡田 宏基
別府支部まちづくり研究会では、日出町の若宮八幡社楼門の保存修理に協力するため、同楼門の調査を行い調査報告書を作成しました。本調査は大分県建築士会まちづくり活動助成金の交付を受けたものでもありますので、ここにその内容を報告します。

現地調査当日は12名のまちづくり研究会メンバーが集まり、配置図測量班、平面・断面担当班、撮影担当班などに分かれ、協力しながら作業を進めました。楼門は300年の歳月を経ているため、損傷箇所や部材を取り替えた箇所も多く見受けられましたが、メンバーはそのひとつひとつを丁寧にスケッチし、各自が持ち帰ったうえで詳細な図面を作成し、現況写真や考察を加えて報告書を作成しました。

今回の調査資料を参考にして平成16年8月に損傷の激しかった高欄部分の補修工事が行われました。まちづくり研究会の活動が貴重な文化財の保存の一助に役立てられてことを嬉しく思いますと同時に関係者のご協力にお礼を申し上げます。

調査目的

速見郡日出町2831に現存する若宮八幡社楼門（日出町指定有形文化財）の歴史的文化財としての価値を専門学術的に明らかにし、保存修理に関する基本資料となることを目的とする。

調査方法

建物実測については、楼門を中心とした配置および平面、各層伏図、断面、立面を手作業にて実測。写真撮影については、外観、高欄部分、各詳細部分をデジタルカメラにて撮影。現状の腐食欠損等については目視にて調査し、実測図に記入。

活動期間

現地調査・・・平成16年6月12日～6月13日
資料作成・・・平成16年6月14日～7月15日



現地調査の様子

調査考察

1) 柱脚部分

足固めの一部を撤去して礎石を施した痕跡がある。また、足固め・柱脚部分に一部腐食が見受けられる。沓石は比較的良好であり高低差は少ない。基壇の（土間）の四半貼石に一部欠損があり、南東側が沈下している。

2) 下層軸組部分

腰貫・内法貫・頭貫等は全て揃っているが、くさびの緩みが全体にある。袖柱・本柱とも東側にやや傾いている。右大臣・左大臣木造を安置している周辺連子格子は改修されており、建築当時の形態ははっきりしないが、金剛垣が南面のみ残っている。

3) 下層斗栱部分

出組は三手先組であり、大斗・杵肘木・卷斗・肘木等は全部揃っているが、全体的に組物は緩んでいる。特に北西部分の緩みが著しい。その影響を受け高欄縁板を受けている丸桁が上層部の柱に押されてはね上がっている。蟄股の彫刻部分は一部が腐食しているものの、ほぼ形状がはっきりしている。

4) 高欄部分

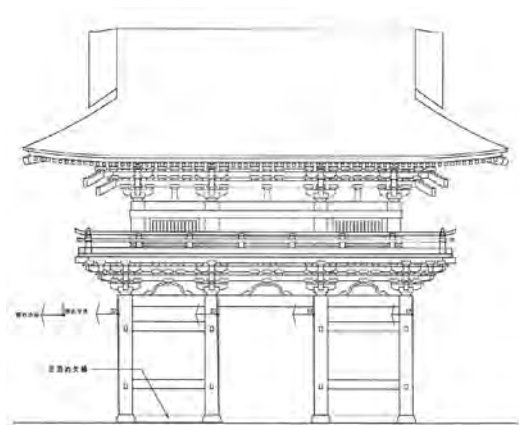
高欄縁板の腐食は全体的に著しい。下層斗栱が緩み、上層の柱より押されて高欄縁板が内側に傾斜しており、雨水が内部に浸入した痕跡がある。地覆・栴束・平桁・斗束・架木ともに腐食は著しい。特に南東部分は一部欠損している。

5) 上層斗栱部分

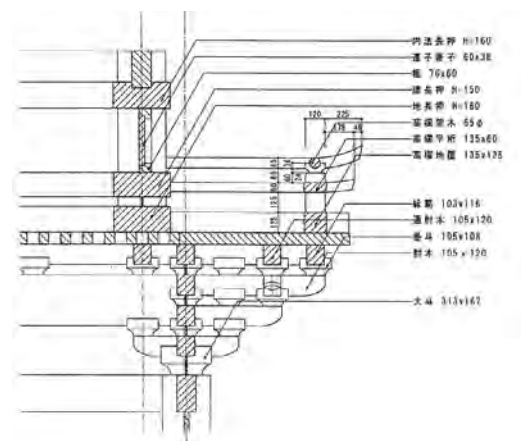
下層同様出組は三手先組であり全て揃っているが、全体的に組物は緩んでいる。組物・丸桁・支輪とも特に腐食は見受けられないが、支輪裏板および鏡天井板は腐食した部分がある。

6) 大屋根化粧軒裏部分

上層斗栱部分が全体的に緩んでいる影響を受けて軒先部分が下がっている。そのため屋根の反りが緩やかになり勾配が変わっているようである。地垂木・飛えん垂木・木負・化粧野地板はほぼ揃っている。茅負・裏甲はすべて取り替えられている。屋根勾配の変化同様に飛えん垂木の勾配も変わっているようである。



図：南立面図



図：高欄部分詳細図

愛媛県建築士会・情報広報委員会

交流会報告

大分支部 笠木 忠昭

2005年10月29日、15時過ぎから、コンパルホール304会議室で、愛媛県建築士会の情報広報委員と大分県の広報委員、編集委員、ホームページ特別委員会委員と機関誌の編集、発行や情報の伝達方法などについて意見交換を行った。

出席者は以下の通りである。

愛媛県出席者

- 濱 本 貞 雄 会長
- 和 田 忠 則 副会長
- 杉 山 博 司 情報広報委員長
- 宮 内 理 情報広報副委員長
- 井 関 克 徳 情報広報副委員長
- 二 宮 初 子 編集委員
- 佐 伯 明 編集委員

大分県出席者

- 岩 瀬 八洲夫 会長
- 笠 木 忠 昭 広報副委員長
- 宮 崎 隆 博 広報委員
- 渡 辺 豊 基 HP特別委員会委員
- 坪 井 敬 行 編集委員
- 飯 倉 尚 之 編集委員
- 高 山 鮎 美 編集委員



濱本、岩瀬両会長挨拶の後、渡辺ホームページ特別委員会委員の司会により会議を進めた。短い時間ではあったが、相互に活発な意見が交換され、有意義な交流会となった。

そのなかで、両者の相違点と一致点を、内容報告としてあげる。

相 違 点

愛媛県建築士会では、会報「いしづち」を年6回、二ヶ月に一回奇数月に発行している。ページ数は30ページで、内容も充実しているようだ。これは年3回でもやっと発行にこぎ着けている大分県建築士会としては、驚異である。しかし、愛媛側では、そのための布陣がしてあるという。つまり、会長の了解のもと、情報広報委員の人的固定を行い、半ばセミプロ化した編集態勢をとっているとのことである。

大分側としては、原則的として二年ごとに代わる支部の編集委員は、常に新鮮でよいと思うが、そのために編集委員長の高齢化が問題だと感じている。



一 致 点

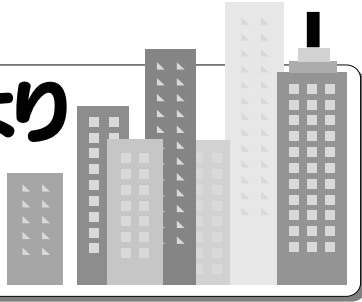
やはりどちらの広報担当も、多くの方に記事を書いて頂き、書いた方には会誌を読んでもらえる、そのことが会誌としての活性化につながり、士会自体の発展につながるという気持ちで編集を行っているという点である。逆に如何にして多くの方から魅力ある記事を集めるかが、問題となってくる。

それと、情報の伝達という面で、ホームページと会誌との関係がある。愛媛と大分とでは、若干ニュアンスの違いはあるが、タイムリーな情報はHPで流し、それ以外の記事を会誌に掲載するという方向性は一致した。しかし、やがて、会誌がHPに代わっていくのではという大分側の予想については、HPが会報に代わることはないだろう、広報誌とそれをカバーするHPは、車の両輪と位置づけられる、といった反論が出された。

以下多くの課題について意見交換を行ったが、紙面の都合で省略し報告を終わる。

行政だより

大分県 建築住宅課



自動回転ドアの安全性に係る JISの制定について

平成16年3月26日の東京都港区六本木ヒルズにおける重大事故を契機に、国土交通省及び経済産業省の共同により「自動回転ドアの事故防止対策に関する検討会」が設置され、同年6月に※「自動回転ドアの事故防止対策に関するガイドライン」が定められました。

このガイドラインを受け、平成17年8月30日に経済産業大臣がJIS A4721「自動回転ドアー安全性」を制定しました。

本JISは、ガイドラインの一部の詳細を定めたものであり、製造事業者が製品の設計等にあたり安全性に関して遵守すべき事項を規定しています。

ガイドラインとあわせて本JISを活用し、自動回転ドアの事故防止対策が適切かつ十分に講じられますよう、会員の皆様にお知らせします。

※ガイドラインは国土交通省及び経済産業省のサイトに掲載されています。

地震時における天井の崩落対策の 徹底について

平成17年8月26日付け国住指第1427号により、以下のとおり国土交通省住宅局建築指導課長から各都道府県建築主務部長あてに技術的助言がありました。

今後は、この技術的助言を参考に、大規模空間を持つ建築物については適切な設計、施工をされるようお願いいたします。

地震時における天井の崩落対策の 徹底について（技術的助言）

去る平成17年8月16日に発生した宮城県沖の地震によるスポーツ施設の天井落下事故について、国土交

通省職員等を派遣し現地調査を実施（調査日は8月16日、17日）したところであるが、この度別添1のとおり「スポパーク松森における天井落下事故調査報告の概要」をとりまとめたので送付する。

この調査では、平成15年10月15日付け国住指第2402号「大規模空間を持つ建築物の崩落対策について（技術的助言）」（以下「平成15年通知」という。）等により通知してきた天井の崩落防止対策の確実な実施が重要であることが明らかとなったところである。

このため、今後、新築される大規模空間を持つ建築物については、必要に応じ下記の対応をとるなど、天井の崩落対策の徹底に努められるようお願いする。

なお、本通知について、管内の特定行政庁及び指定確認検査機関に周知するとともに、天井の設計図面の作成及び設計に従った施工が適切になされるよう、管内の建築士事務所の関係団体等に対しても周知徹底を図られたい。

記

1. 建築確認の際（指定確認検査機関による確認の場合は、当該指定確認検査機関から確認済証を交付した旨の報告を受けた際）に、建築基準法第12条第5項に基づき、建築主等に対し天井に関する設計図書提出を求め、平成15年通知に示している振れ止めの設置、天井と壁とのクリアランスの確保等の天井落下防止策が適切にとられていることを確認すること。
2. 中間検査又は完了検査において、建築基準法施行規則第4条の8第1項第4号又は同規則第4条第1項第4号により、検査の申請書の添付書類として天井の工事写真を求める等により、天井が設計図書どおりに施工されていることを検査すること。

※「別添1」「平成15年通知」については、国土交通省のサイト（記者発表資料）に掲載されています。

建築基準法施行令の一部の改正について

建築基準法施行令第21条において、学校の教室でその床面積が50㎡を超えるものの天井の高さを、3m以上にしなければならないこととする特例規定が廃止されました。

建築基準法施行令の一部を改正する政令は平成17年11月7日に公布・施行されました。

公文書コーナー

大分労収基第1879号
平成17年10月18日

各 位

大分労働局長
(公印省略)

大分労収基第1809号
平成17年10月11日

各 位

大分労働局長
(公印省略)

石綿を含有する建材、摩擦材、接着剤及びこれらを使用する製品の製造、輸入、譲渡、提供又は使用の禁止等について

労働安全衛生行政の推進につきましては、平素より御理解、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、今般、石綿が一部の自転車製造業者が輸入した幼児用自転車のブレーキライニングに使用されている事案及び一部の接着剤製造業者が製造した接着剤に石綿が使用されていると思われる事案が明らかになりました。石綿を1%を超えて含有する建材、摩擦材及び接着剤については、平成16年10月1日から、労働安全衛生法第55条の規定に基づき、製造、輸入、譲渡、提供又は使用が禁止されているところです。

つきましては、貴協会会員に対し、法令の遵守について徹底するとともに、下記事項について改めて周知するようお願いいたします。

記

1 石綿を1%を超えて含有する建材（石綿セメント円筒、押出成形セメント板、住宅屋根用化粧スレート、繊維強化セメント板及び窯業系サイディング）、摩擦材（クラッチフェーシング、クラッチライニング、ブレーキパッド及びブレーキライニング）及び接着剤については、別添のとおり、労働安全衛生法第55条の規定に基づき、製造、輸入、譲渡、提供又は使用をしてはならないこと。

また、これらのものを部品とする製品を輸入等をすることも禁止されていること。

2 平成17年7月26日に、平成16年9月30日以前に製造され又は輸入された建材の在庫品については、譲渡等を直ちに停止するよう要請したところであるが、石綿による健康被害が社会的な問題となっていることから、摩擦材及び接着剤の在庫品についても、譲渡等を直ちに停止することが強く求められること。（別添略）

石綿障害予防規則に基づく措置の遵守徹底に係る協力依頼について

厚生労働行政の推進につきましては、平素から格別の御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、石綿による健康被害の拡大を防止するため、厚生労働省におきましては、事業者に対して石綿障害予防規則に基づく措置の遵守の徹底を図っているところですが、先般、緊急的な対応として石綿含有製品を製造し又は取り扱っていると考えられる事業場に対して監督指導等を実施した結果、石綿に係る特殊健康診断が適正に行われていない、保護具の備付け及び使用が適正に行われていないなど、法令が遵守されていない例が見られることから、改めて労働安全衛生法及び石綿障害予防規則に基づく措置の徹底を図ることといたしました。

つきましては、

①下記に掲げる石綿の取扱い等の作業を過去に行っていた事業場においては、当該作業に従事したことのある労働者に対して、石綿障害予防規則に基づき健康診断を確実に実施し、その結果を労働基準監督署へ報告すること

②現在も下記に掲げる石綿取扱い等の作業を行っている事業場においては、健康診断の実施・報告とともに、石綿障害予防規則に基づく各種措置を確実に実施すること

について、関係機関、傘下の団体、会員事業場等の関係者に対して周知等を図っていただきますよう、御協力をお願いいたします。

また、厚生労働省においては、石綿の取扱い等の作業に従事し、すでに退職した方についても石綿に係る健康診断を実施していただくよう、事業者に対して要請を行っているところですが、改めて、関係機関、傘下の団体、会員事業場等の関係者に対して周知等を図っていただきますよう、御協力をお願いいたします。

なお、石綿に係る健康診断及び健康管理手帳のパンフレットを同封いたしますので、関係者に対する周知等にご活用下さい。

記

石綿取扱い等の作業として、健康診断を含め石綿障

害予防規則に基づく措置が必要とされる作業としては、次のような作業が該当します。

なお、これに含まれない作業であっても、石綿又は石綿をその重量の1%を超えて含有するものを発じんのおそれのある状態で製造し、又は取り扱う作業であれば石綿障害予防規則に基づく措置が必要となります。

- 1 石綿鉱山又はその附属施設において行う石綿を含有する鉱石又は岩石の採掘、搬出又は粉碎その他石綿の精製に関連する作業
- 2 倉庫内等における石綿原料等の袋詰め又は運搬作業
- 3 以下の石綿製品の製造工程における作業
 - ・石綿糸、石綿布等の石綿紡績製品
 - ・石綿セメント又はこれを原料として製造される石綿スレート、石綿高圧管、石綿円筒等のセメント製品
 - ・ボイラーの被覆、船舶用隔壁のライニング、内燃機関のジョイントシーリング、ガスカート（パッキング）等に用いられる耐熱性石綿製品
 - ・自動車、捲揚機等のブレーキライニング等の耐摩耗性石綿製品
 - ・電気絶縁性、保温性、耐酸性等の性質を有する石綿紙、石綿フェルト等の石綿製品（電線絶縁紙、保温材、耐酸建材等に用いられている。）又は、電解隔膜、タイル、プラスター等の充填剤、塗料等の石綿を含有する製品
- 4 石綿の吹付け作業
- 5 耐熱性の石綿製品を用いて行う断熱若しくは保温のための被覆又はその補修作業
- 6 石綿製品の切断等の加工作業
- 7 石綿製品が被覆材又は建材として用いられている建物、その附属施設等の補修又は解体作業
- 8 石綿製品が用いられている船舶又は車両の補修又は解体作業
- 9 石綿を含有する蛇紋岩等の鉱物の粉碎作業

大建士第 88 号
平成17年11月28日

各 支部長 殿

社団法人 大分県建築士会
会長 岩瀬 八洲夫

構造計算書の偽造問題に係る不正防止について（通知）

このたびの構造計算書の偽造、設計事務所による違法な行為によって、居住者等に多大な被害を生じさせたことは言語道断であり、決してあってはならないことです。構造計算書を偽造した建築士に直接の責任があることは明白ですが、設計を担当する元請の建築士事務所は、構造設計についても元請として統括する立場にあり、その役割と責任は大きいものがあります。

今回の問題で、建築士や建築設計業務に対する国民の信頼は大きく失われました。当会としては、今回のような事案は、会の目的である「建築文化の進展」に反して会の名誉を毀損した場合に該当するので、除名処分にするなど厳しく対処することにします。

なお、大分県土木建築部建築住宅課長から別添のとおり、建築士資格の取り消し等厳正に処分する旨の通達があったので、貴支部会員へあわせて周知徹底を図られたい。

おって、今回の件について支部に市民、住民から相談等があった場合には、本会事務局へ転送願います。

別 添

建字第 1229 号
平成17年11月18日

(社) 大分県建築士会会長 殿

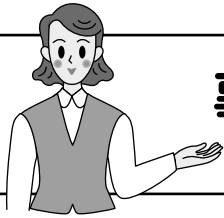
大分県土木建築部建築住宅課長

建築確認申請等に係る不正防止について（通知）

平成17年11月18日付け新聞等で報道されているように民間確認機関で建築確認を行った建築物の構造計算書が偽造され、マンション等が建設されたことは誠に遺憾であります。

建築士法は、建築物の設計、工事監理等を行う技術者の資格を定めて、その業務の適正をはかり、もって建築物の質の向上に寄与させることを目的としています。特に建築士法第18条第1項、第2項に明示されているところです。

今後、このような事例が生じた場合は、事務所閉鎖はもとより建築士資格の取り消し等厳正に処分する事となるので、貴会員に周知すると共に、講習会等を通じ再発防止に努めるよう指導願います。



事務局だより

委員会

1. 総務委員会

日時	会議名	場所	出席者数	概要
H17.11.8	第1回委員会	事務局	役員 8名	平成17年度役員選出 事業・収支状況について 納税状況について 会費収入状況について

2. 事業委員会

日時	会議名	場所	出席者数	概要
H17.8.10	福岡西方沖地震 災害調査報告会	県庁正庁ホール	170名	「建築士の日」の行事の一環
H17.9.20	建築基準法改正 講習会	教育会館	正会員 108名 非会員 2名	県建築住宅課 船瀬補佐/河野技師
H17.10.1	アスベスト講習会	教育会館	75名	社/日本保温保冷工業会 大分支部長 河上 徹治氏

3. 広報委員会/編集委員会

日時	会議名	場所	出席者数	概要
H17.10.26	第2回委員会 編集委員会 同時開催	コンパルホール	役員 11名	No.95の編集について 愛媛県建築士会・情報広報委 員会との交流について
H17.10.29	愛媛県建築士会・ 情報広報委員会	コンパルホール	愛媛県 7名 本会 6名	情報交換会
H17.10.30	意見交換会 同上建築見学	新旧図書館 ビッグアイほか		笠木編集長対応
H17.11.24	編集作業	事務局	4名	「建築士おおいた」No.95校正
H17.12.6	編集作業	事務局	7名	「建築士おおいた」No.95校正
H17.12.14	編集作業	事務局	5名	「建築士おおいた」No.95校正

4. 建築士試験対策特別委員会

日時	会議名	場所	出席者数	概要
H17.9.25	2級設計製図試験	日本文理大学	監理員 10名 補助員 3名	受験者 123名
H17.10.9	1級・木造 設計製図試験	日本文理大学	監理員 9名 補助員 2名	受験者 一級 114名 木造 2名

5. まちづくり推進協議会

日時	会議名	場所	出席者数	概要
H17.9.12	第1回協議会	事務局	役員 6名	まちづくり活動支部助成につ いて(大分・佐伯・中津) 行政の状況報告

6. ホームページ特別委員会

日時	会議名	場所	出席者数	概要
H17.11.15	第1回委員会	事務局	役員 3名	ホームページの更新について

7. 昇降機等特別委員会

日時	会議名	場所	出席者数	概要
H17.11.5	県内関係者連絡会議	城島後楽園ホテル	12名	H17年度事業・収支中間報告

会議報告

理事会／三役会等

日時	会議名	場所	出席者数	概要
H17.11.17	第3回三役会	事務局	7名	第4回理事会の議題について 空家・宅地の物件調査受託について 組織検討委員会の設置について
H17.11.25	第4回理事会	別府亀の井ホテル	役員 39名 事務局 3名	委員会報告 青年部会・女性部会活動状況の報告 中間決算報告

青年部会

日時	会議名	場所	出席者数	概要
H17.11.26	青年部長・副青年部長会議	日田市	役員 17名 その他 6名 事務局 1名	各支部活動報告 H19年度「建築士の集い」大分大会について サマーセミナー開催支部について

連合会・ブロック会

日時	会議名	場所	出席者	概要
H17.8.23	総務・企画委員会	東京都	岩瀬会長	政策・組織・財政改革の提言
H17.9.15	427回定例理事会	東京都	岩瀬会長	災害時の緊急発動体制の検討 CPD・専攻運営委員会報告 全国大会報告ほか
H17.11.11	九州ブロック第1回会長会議	佐賀市	岩瀬会長 許斐事務局長	H17年度事業・収支予算中間報告 細則の変更 各県提出議題協議 連合会連絡事項
H17.11.19	九州ブロック第2回青年・女性建築士協議会役員会	福岡市	渡邊青年部相談役 後藤青年部会長 阿南女性部会長 野依女性副部会長	「建築士の集い」宮崎大会の収支報告について パッションin鹿児島大会について 「建築士の集い」熊本大会について 今後の大会運営方法について
H17.11.22	専攻建築士運営委員会	東京都	岩瀬会長	
H17.11.29	総務・企画委員会	東京都	岩瀬会長	
H17.12.2~3	全国女性建築士連絡協議会	香川県	女性部会員9名	シンポジウム 分科会、全体会

新 会 員 紹 介

(H.17年9月～12月入会)

支 部	氏 名	勤 務 先 (所 在 地)	電 話
国 東	今福 守	自 営 東国東郡安岐町下原107	(0978) 67-2086
大 分	河野 昭二	(株)佐伯建設 大分市中島西3-5-1	(097) 536-1538
大 分	後藤 勇二	YKKAP(株) 大分支店 大分市寺崎町1-2-1	(097) 551-4667
大 分	高橋 芳友	日豊サーベ-株式会社 中津市中央町2-6-1	(0979) 24-5742
大 分	中道 了子	(株)アルカニック 大分市岩田町3-8-9	(097) 551-5000
大 分	藤井 千鶴	(有)アーキワークス・TeTsu 建築設計室 大分市大字中尾517番地4	(097) 549-3700
大 分	藤本めぐみ	(株)ベネックホーム 大分市舞鶴町2-1-2	(097) 537-8055
佐 伯	二宮 未貴	谷川建設工業(株) 佐伯市常磐南町8-33	(0972) 22-2601
佐 伯	増野 茂男	(株)谷一建設 佐伯市西浜6番10号	(0972) 22-1475
宇 佐	高橋 浩	堀之内建設(株) 宇佐市大字法鏡寺289-3	(0978) 32-2233

指 定 講 習 会 開 催 の お 知 ら せ

1. 講習会名称 「建築士のための指定講習会」
2. 主 催 社団法人 大分県建築士会 ・ 社団法人 日本建築士会連合会
3. 日 時 平成18年2月13日(月) 9:25～16:45
※受付は、8:40より行います。
4. 会 場 (財)大分県教育会館 多目的ホール
大分市大字下郡496番地の38 (TEL 097-556-6411)
5. 受 講 料 14,000円
但し、本会会員11,000円(3,000円は建築士会で負担します)
テキスト代、受講修了証(顔写真添付のカード)、登録料を含む。
6. 申 込 期 限 平成18年2月3日(金) 必着
(受講料振込期限)
7. 申 込 先 社団法人 大分県建築士会
〒870-0022 大分市大手町2丁目2-7 田原ビル2F
(TEL 097-532-6607 FAX 097-532-6635)
8. C P D 12単位

あけましておめでとうございませう。
情報をお知らせください。 笠木

コト・ソング"ばんざい"
T.A

今年もFFに始まり
FFに終わる〜っし。



今年も宜しく
お願ひ致します。〜

笠木劇場での編集作業
皆の足を引っ張りばかり無事？終了
想定内でした。 津又支部 竹田

広報委員

担当副会長	〈佐伯〉	志賀	隆保
常務理事	〈大分〉	幸孝	三
委員	〈大分〉	佐藤	富士雄
〃	〈大分〉	笠木	忠昭
〃	〈大分〉	宮崎	隆博
〃	〈別府〉	原	精一郎
〃	〈臼杵〉	板井	登喜雄
〃	〈佐伯〉	井上	一則
〃	〈三重〉	岡部	達巳
〃	〈竹田〉	川野	和男
〃	〈日田〉	日高	淳一
〃	〈中津〉	三雲	金吉

編集委員

編集委員	〈高田〉	成重	憲一
〃	〈国東〉	菊本	軍治
〃	〈別府〉	岡田	宏基
〃	〈大分〉	笠木	忠昭
〃	〈大分〉	山田	由二
〃	〈大分〉	佐藤	安典
〃	〈大分〉	坪井	敬行
〃	〈大分〉	飯倉	尚之
〃	〈大分〉	高山	鮎美
〃	〈佐賀県〉	川口	尚文
〃	〈臼杵〉	赤嶺	竜一
〃	〈津又見〉	竹田	光徳
〃	〈佐伯〉	安部	秀久
〃	〈佐伯〉	中田	智佐美
〃	〈三重〉	後藤	康仁
〃	〈竹田〉	野村	忠司
〃	〈玖珠〉	佐藤	誠和
〃	〈日田〉	秋村	増夫
〃	〈中津〉	山村	治彦
〃	〈宇佐〉	奥田	和彦

建築士大分

2006.1 No. 95

(非売品)

平成17年 12月26日 印刷

平成18年 1月 1日 発行

編集/発行所

社団法人

大分県建築士会

〒870-0022

大分市大手町2丁目2-7田原ビル2F

TEL 097-532-6607

FAX 097-532-6635

印刷所/いづみ印刷株式会社

大分市大字下郡字丁畑3119-1 TEL (097) 569-3741

豊 築 士

式 会 社

本・支部名	〒	事務局所在地	TEL
高 田	879-0605	豊後高田市御玉199	0978-24-0418
国 東	873-0503	東国東郡国東町安国寺718	0978-72-2887
別 府	874-0845	別府市大字鶴見字角田3220-3 別府建築士事務所会館	0977-67-4488
本部・大分	870-0022	大分市大手町2-2-7 田原ビル2F	097-532-6607
佐賀関	879-2201	大分市大字関3068 高島建設(株)内	097-575-0116
臼 杵	875-0082	臼杵市稲田中尾下1000-1 (有)みえのブロック内	0972-63-6695
津久見	879-2458	津久見市入船西町21-1 小代築炉工業(株)内	0972-82-4155
佐 伯	876-0813	佐伯市長島町1-3-11	0972-23-6099
三 重	879-7131	豊後大野市三重町市場701-5 ウィリングリービル	0974-22-6606
竹 田	878-0026	竹田市大字飛田川1618-6	0974-62-3711
玖 珠	879-4331	玖珠郡玖珠町大字戸畑3466-1 高倉ホーム内	0973-73-7436
日 田	877-0025	日田市田島1-7-43-1F 102 (有)藤原設計内	0973-24-6022
中 津	871-0024	中津市中央町1-5-24 中津建築会館	0979-24-3597
宇 佐	879-0454	宇佐市大字法鏡寺290-1 服部第3ビル102号	0978-33-3395
本 部	http://www.oita-shikai.or.jp/		
別 府 支 部	http://www.beppu-yukemuri.com		
大 分 支 部	http://homepage2.nifty.com/k-shikai-oita/oitasibu/		
佐 賀 関 支 部	http://www.d-b.ne.jp/sekisibu/		
臼 杵 支 部	http://www.bungo.or.jp/usk_shikai/syoukai.htm		
津 久 見 支 部	http://www.bungo.or.jp/t-shikai/		
佐 伯 支 部	http://www.geocities.jp/o_s_kentikusi/		
三 重 支 部	http://www16.plala.or.jp/sok-mie/		
竹 田 支 部	http://ww61.tiki.ne.jp/~kentikusi-ta/index.htm		
玖 珠 支 部	http://www18.ocn.ne.jp/~ken-kusu/		
日 田 支 部	http://www.d-b.ne.jp/ken-hita/index.htm		
中 津 支 部	http://www6.ocn.ne.jp/~ken-kai/shikai/01top/index.htm		
宇 佐 支 部	http://www.d-b.ne.jp/usasikai/		

会 員 増 強 に ご 協 力 を !

~会員二人で、一人の入会勧誘を~
目標3,000人突破



社団法人 大分県建築士会